自享保六年
至同十年

毛利十一代史

第二十二冊

泰桓公記

毛利十一代史卷之五十二

大田報助編

泰桓公記十二

享保六年辛丑正月朔日公萩城ニ在リ享保元年德山領還付ノトキ諸臣增加ノ爲メ享保四年ヨリ元日ノ謁見兩日行ワレシニ去々年德山配地舊ニ復スルニヨリ本年ヨリ古來ノ如ク是日拜賀ヲ受ケラル

二日福原對馬正月御謠初ノトキ献上ノ太刀御間ノ内へ提出セントノ請願許容アリ

當職山内縫殿ヨリ演達セシ書付左ノ如シ

正月三日御謠初の節對馬殿從前々御間の内え御太刀持參の由にて先頃已來段々被申聞候譯に付當役中再三申合令僉議候處御謠初の儀對馬殿家え對し各別の御仕成の品も有之其儀は御控に有之候へ共去年御謠初の節抽高座え御太刀持參に付僉議被仰付候處其段御控にも無之拜領の御太刀も二の間にて被下候付旁其節

吹治
43.10.25
寄贈

被仰出も有之候へは今更各了簡には難及由先達而及挨拶候へ共此上　上の御思召も可有之と猶更申談及　御聞候處御諮初の儀別而福原の家え御馳走の儀其上古來より不絶右の通候へは向後新の儀（虫入欠）絶等の類に可準（虫入欠）にて（虫入欠）の候付被爲任流例候間御間の内敷居際に差置候樣被仰出候事

同日市人正月登城之制發布左ノ如シ　德川實紀

けふ令せらるゝは明三日嘉儀として營中へまうのぼる市人卯前迄に出べしたとひ雨ふるとも遲參すべからず舊冬姓名書しるし進呈せし里正幷に角屋敷の外は一人も出べからず勿論名代出す事かたくあるべからずとなり

十一日御物初之鐵炮惣黑星的中セシニ因リ所管物頭へ賞詞アリ

十四日儒臣木下平三郎寅亮室新助直清服部清九郎保廣土肥源四郎元成等ヲシテ論語ヲ講セシム爾後屢之ヲ召ス　德川十五代史

十八日關八州内ニ於テ銃獵諸鳥之賣買ヲ禁ス　德川實紀

廿五日世子宗元君疱瘡（二月十一日酒湯ヲ引ク）

二月十一日萩ヨリ候問ノ爲メ御部屋手廻頭山内新右衛門奥番頭中井貞右衛門出府セシム

二月朔日毛利三次郎出萩六日萩ヲ發シ七日德山ニ歸ル

二日毛利日向守江戸ニ於テ疱瘡

五日正月御規式ヘ陪席ノ家筋ニ關シ判物又ハ證徽トナルヘキ書簡等所有之輩來十日ヲ期シ永田瀨兵衛方ヘ提出スヘシトノ訓示アリ

六日萩附近山燒禁止境界ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

山田　三見　ことう　明木　白上邊　莚野　吉田　大井

右例年山を燒候儀御沙汰相成候通無相違候然處前々は山燒の儀二月廿日を物切に被仰付候へ共向後御在國の節は萩廻り山をやき候事　御精進日の外は道燒たり共仕間敷候若相背者於有之は可被及御沙汰候此段烏横目地下人えも堅申渡候間右の趣組中えも念を入可被申觸候以上

享保六丑二月六日

七日江戸四谷ヨリ出火北風ニテ大火ニ及フ吾麻布邸外長屋六拾間長屋八所燒亡

同日毛利日向守元堯弟山次郎ヲ養子トセンコトヲ願フ十三歳

八日澤彌八郎ニ右筆ヲ命ス

九日諸臣ヨリ各邸ヘ土宜ニ關シ訓示左ノ如シ

上々樣方え御家來中ゟ御土產物の儀近年差控候樣に被仰付候向後以御儉約は同然の御事候得共いつとなく差止候樣にも難相成儀に付當年ゟは御供達臨時交代の銘々に至まて輕き御土產物被仰付候條鹽物魚鳥類其外の物にても輕き品就も御國物輕きを第一に仕一種宛献上可被仕候右献上仕候物通りの儀御兩殿樣えは前々の通其外　上々樣方の儀は御目見被仰付候面々計献上被仰付候且又御付々の男女等え土產儀別物の儀愈以停止に被仰付候事

享保六丑二月九日

十一日毛利日向守元堯江戸麻布今井邸ニ卒ス年二十豪德院ト謚ス青松寺ニ葬ル

二月廿三日死去ノ訃萩ニ達ス廿四日ヨリ廿九日ニ至ル鳴物停止

十二日昨年十月廿七日松平大隅守薩州へ賜暇初入國ヲ祝シ口羽六兵衛ヲ使トシ太刀金馬代小袖十樽一荷二種ヲ贈ラル

十五日寄組以上ノ嫡子在郷行ニ關シ記錄所ヨリ訓示左ノ如シ

寄組以上ノ嫡子前々御在國の內無據儀にて在郷被罷越候儀式日出仕有之付而右出仕に不障間相の日數は記錄所え屆置被罷越式日に障候日數の儀は　御目見有之事に候故當役迄被相願候上相越被成候處何となく混雜のやうに相聞候自今已後如前々被相心得朔日十五日廿八日出仕に障候日數の屆於有之は聞屆迄にて不相濟段右の譯記錄所衆ゟ可被相達候事

享保六二月

同日井原藤兵衛ニ公儀人ヲ命ス

廿日在々山燒禁制ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一在々に而山を猥に焼候付小松其外雑木等焼拂其費不大形候依之此度在々に而山焼不申所物切被仰付地えも手堅其御沙汰相成候諸士中の儀在郷歩行の節山を焼候儀毎々有之候物切をも不存事候へは向後諸士中山焼候儀堅被差留候事

享保六丑二月廿日

廿八日毛利三次郎徳山ヲ發シ陸路出府供從毛利八郎右衛門

日不詳古跡之寺院引寺等ニ關シ寺社奉行ヨリ伺指令左ノ如シ

覺

此段近郷に寺一宇も無之所の儀御斷於申出は其節の依趣可被遂御吟味候且又普請の坪數の儀は追て御沙汰可有之候事

一古跡の寺院引寺被差免寺建立仕候時は何坪迄は可被差免哉の事

此段位牌置所年々壇方も増位牌數多に相成手狹に而及難儀作事相願候はゝ差圖前を以萩内は御歩行目付在々は地下役人え見分被仰付於無相違は時々の御了簡を以有懸り位牌堂に茨おろし九尺けた行は元位牌堂有限迄は可被差免候事

但有かゝりの位牌堂を取崩し新規に被差免候坪數程は新古一所に仕住居替作り替の儀をも時々の御了簡を以可被差免候事

一且方位牌置所の儀年々且方も増位牌數多に相成手狹に而及難儀相願候時は坪數何坪迄は可被指免哉都合の坪數何坪と限り被差免候上は住居の儀は如何樣共心次第可被仰付哉の事

右の通御肩書被仰付候者其辻を以沙汰仕時々御伺可仕候以上

享保六丑二月　　和智次郎兵衛

山田吉兵衛

三月朔日給師雲谷等直家ヲ分地シ其身儒者ニ採用之請願ヲ允許シ中島小兵衛三男彌八ヲ養子トシ持掛家祿之内高七拾五石讓與シ殘高百四拾石等直ニ給與

同日口羽衞士裏判役ヲ免シ宍戸權之助ニ後任ヲ命ス

同日多年ノ功勞ニ因リ從前ノ貸銀ヲ加祿トシ本年末ヨリ根帳ニ錄スルモノ左ノ如シ

銀貳貫目　曾禰靱負　市川與三　入江彌兵衛
小川右衛門兵衛
銀壹貫目　中島勘右衛門　小倉新右衛門
銀壹貫貳百目　宇野與一右衛門　永田瀨兵衛
銀八百目　林與一右衛門　中所源兵衛
銀壹貫貳百目　坪井彦右衛門　銀六百目　岡部市郎右衛門
櫻井勘兵衛　山縣六右衛門
銀四百目　楢崎助左衛門　銀四百目　厚母宇兵衛
銀三百目　重見彌兵衛　銀六百目　野尻三郎右衛門
北野新右衛門　大樂朴水　和智伊右衛門
中山忠左衛門

二日松平大隅守ヨリ使者ヲ萩ニ遣シ太刀金馬代縮緬五十卷樽一荷二種ヲ贈ル入部ノ祝使ニ答フルナリ

三日江戸大火東叡山仁王門燒亡

四日又火小石川傳通院堂舍皆燒ク

同日小倉梅軒雲谷等鶴分知之請願ヲ許可ス梅軒持掛家祿高貳百拾五石之內高五拾石ヲ以テ醫業之養子ヲ爲シ殘高百六拾五石ヲ家業一代切トシ嫡子宗丹ヲ平士ニ奉仕セシム等鶴家業一代切トシ雲谷本家ハ等全ニ五拾石分知繼續セシメ等鶴嫡子代ニハ平士ニ奉仕セシム等鶴家祿三百六拾石也

同日多年之功勞ニ因リ開作地及扶持米石直本年末ヨリ根帳ニ錄スルモノ左ノ如シ

開作地三拾町（內十五町土手築之內）　阿曾沼二郎三郎
高百石（外開作地五町）　仁保太左衛門
高六拾石　幸坂與左衛門
開作拾五町（內七町土手築之內）　井上右衛門
銀六百目　中島自伴
銀三百目　有地六左衛門

銀五百四拾四匁
切錢四百目

銀貳百目

高五石

外ニ扶持方切錢下付三拾人

同日毛利伊勢ニ銀貳拾貫目給與英性院毛利監物元直子毛利元直嗣毛利阿波就縁跡阿波家續命セラレ阿波死去年ヨリ銀三拾貫目下付以來員額不定ナルモ凡廿貫目宛貸與セラレ將來ハ本知ヘモ加ヘラルヘシトナリ

村上安右衛門
郡司源大夫
木村九郎兵衛
境五郎左衛門
土田勘兵衛
越智武左衛門
梶山源六
熊野右中
井上半七郎

五日遠近方井上七右衛門轉任齋藤伊右衛門ニ後任ヲ命ス

六日公萩發駕加判完戸美濃當役山内縫殿手回頭國司頼母大組頭完戸四郎五郎

七日朝鮮使來聘ニ付接遇費ヲ公私領ニ課ス德川十五代史

同日公在府之時寒暑候問書及年始歳暮披露狀提出ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一殿樣御在江戸の節寒暑便書を以御機嫌被相窺來候面々彌從　公儀右兩度の御機嫌伺の飛脚便披露狀一同差登候樣可被仕候尤御機嫌伺の書狀被差出候節外の書狀に紛不申候樣付札等仕可被差出候事

はね紙

歳暮披露狀極月十五日を切便無之候はゝ態成とも可被差越候事

一歳暮の披露狀此已後は極月五日を限一格切取揃御藏元兩人役所え可差出候尤外の書狀紛不申樣付札可被仕候事

はね紙

年始の披露狀正月十一日御物始の飛脚便を以江戸可被差越候事

一年始の披露狀此已後は正月五日を限一格切取揃御藏元兩人役所え可被差出候付札の儀右同斷右の通堅可被相心得候尤面々差合等有之追而披露狀被差登儀有之候はゝ其趣別紙相認候而成共至江戸相達候樣可被仕候事

享保六丑三月七日

十二日世子宗元君櫻田邸ヨリ麻布邸へ歸住

廿日組頭寄組在役中江戸番手幷遠國御使番勤務ノトキ休之請願ニ關シ訓示左ノ如シ

組頭寄組御役十ヶ年引續相勤候內江戸御番手御使幷遠國御使等貳度以上相勤候面々休之御斷申出候はゝ三ヶ年休可被差免候貳十ヶ年相勤候內江戸御番手御使並遠國御使之間五度相勤候面々休之御斷申出候はゝ五ヶ年休可被差免候事

但御奏者役之儀は不及沙汰候事

享保六丑三月二十日御道中ゟ益織部殿へ被仰越候

廿九日此春六度ノ大災ニカ、リシ戸數合テ十四萬千三百三十ニアマレリ各賑恤アリ德川十五代史

日不詳服忌令續ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一近年服忌令續之儀御目付所え承合來候得共向後は本文に有之儀は御目付所え承合本文にて難分儀をは小倉尙齋え沙汰被仰付候間面々ゟ直樣承合尙齋差圖之通服忌請候段支配々々え被相屆候樣との事

享保六丑三月

四月朔日三奉行ニ命シ町人百姓ノ其主親ヲ殺セシ者又ハ特ニ重罪ヲ犯シタルモノノ子孫ノ刑ハ臨時ニ之ヲ議定スベシ其他ハ磔獄門ノ刑モ其身ニ止マリ子孫ニ及フベカラズ但コレハ町人百姓ニ限リ武士ハ此限ニアラズト也德川十五代史

五日公江戸著袴

九日乾字金通用無用ニ關シ閣老交付書左ノ如シ

覺

一乾字通用之儀去々亥年限りにて去子年以來は一切通用無之筈に候處今以通用候筋も有之由相聞へ候遠國末々の者心得違候故右之通に候歟此上堅通用不仕急度引替可申候尤引替之儀も來寅年限之事に候條是又其旨を存無油斷引替可申候事

一元祿銀寶永銀中銀三寶四寶銀之事も彌最前被仰出候通來寅年限引替可申候卯年よりは一切通用御停止之儀に候條是以遠國末々迄御旨相心得來寅ノ極月を限急度引替可申候事

右之趣江戸京大坂其外所々町場は其所之奉行國々在々御料は御代官私領は領主地頭より入念可被申付候若此上書面之趣違犯之事有之におゐては可爲曲事者也

丑四月

十一日ヨリ十七日ニ至ル泰巖公三十三回忌法會大照院ニ於テ修セラル

十六日毛利三次郎家督許命アリ廿八日登營拜謝將軍ニ謁ス

同日東叡山火ノ番命セラル

十八日農民銃獵ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

五年以前酉ノ五月被　仰出候猪鹿猥多く出で田畑をあらし候節は日切にて鐵炮打候得共自今は御拳場之外は四月朔日より七月晦日迄日切之構なく打せ可申候尤打初候節〳〵虫喰ひ欠〳〵炮改え相屆打せ可申候是又鐵炮打候儀相止候との儀七月晦日に是又鐵炮改え書付可差出候

但八月朔日より三月晦日迄は唯今迄之通に可被相心得候

以上

丑ノ四月

十九日世子完元君十七日ヨリ不例江戸麻布邸ニ卒ス年十九廿七日瑞聖寺ニ葬ル祐巖院ト謚ス廿八日ヨリ二夜三日ノ法會修セラル

高野山安養院位牌安置墓ハ奥院ニアリ

廿一日弔使奏者高木主水正ヲ以テ懇命ヲ傳フ

同日大庭源太夫弟源八家人小野村喜右衛門慮外ノ行動ヲ怒リ手討ニス當職源大夫ノ申告ヲ受理シテ檢視ノ處分ヲ爲サス

同日三戸彦右衛門ニ所帶方ヲ命ス

廿二日端午儀物之華美ヲ禁ス大目付同狀

覺

一菖蒲甲立物計はく置可申事

一鉢しころ何もすみぬりに可仕候紋平かき候はゝたんごふんろくしやうにて少々彩色可申事

但織物類にて包申間敷事

一鎚長刀はく置申間敷候其外ぬり彩色甲同樣之事

但人形類可爲無用事

右獻上之菖蒲甲たりといふとも此定より宜敷仕間敷候是より麁相なるは只今迄用ひ來候通たるへく候以上

丑四月

右之通先達而町奉行え申渡候間此通可被相心得候當年之儀は町方より願之品も有之拵置候分は商賣仕筈に候誂候とては一切定之外には不成候尤來年より は相觸候通急度相守可申候以上

廿七日毛利讃岐守匡廣江戸發五月十八日歸邑

廿九日大目付回狀左ノ如シ

諸秤千木新古不限修復糸付等內々に而拵用候儀堅仕間敷候此段向々え可被相觸候以上

丑四月

同日江戸ヨリ世子宗元君不例報告トシテ神保宗內萩着又萩ヨリ候問ノ爲メ藤井正左衛門ヲ出府セシム

晦日岡本庄兵衛世子死去ノ報ヲ齎ラシ萩ニ抵ル鳴物高聲停止弔問使トシテ神村藤

左衛門出府セシム

五月朔日祭禮之制ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

向後祭禮ねり物渡り掛り候節棧敷よりは勿論往來之者も藝所望之儀堅無用に可仕候尤前方致約束置相對にて渡り物之方ゟ藝いたし見せ候儀は可爲格別候

右之趣相背候者有之後日に聞ゑ候はゝ可爲越度候此段武家其外町方迄可被相觸候以上

丑五月

十日鳥越一夫人（綱廣公女頼姫松平下總守室）分娩

十五日永田馬場夫人（綱廣公女品姫内藤豐前守室）死去年五十八法名寶心院天德寺ニ葬ル

同日萬石以上領地の農商等府に出て罪を得るものも輕きものは領主に引渡すべし

もし追はなつべき罪のものあらは領主の封地にて行ふべきやうさとすべし萬石以下はその時宜によるべしと評定所に仰下さる德川實紀

廿一日祐巖院殿位牌去二日江戸ヲ發シ是日入國龍藏寺渡ヨリ上野ヲ經テ東光寺ェ入ル

廿五日永田馬場夫人十五日死去ノ報萩ニ達ス是日ヨリ六月四日ニ至ル鳴物停止弔問ノ爲メ中村與右衛門ヲ出府セシム

六月三日ヨリ七日ニ至ル祐巖院殿初度法會東光寺ニ於テ修セラル

是時由緒之輩ヨリ請願ニヨリ東光寺ヘ石碑建立高野山石塔供養ノ爲メ完戸河内ヲ遣シ代拜セシム

十二日山王祉祭ノトキ祐巖院殿逝去服中ニヨリ本年ハ馬鎧出サヽルヲ閣老ニ申告セラル

廿三日諸國采邑ヲシテ田圃戸口之註記ヲ呈セシム御目付同狀

諸國領知之村々田畠之町歩郡切に書記並百姓町人社人男女僧尼等其外之ものに至迄人數都合領分限に書付可被差出候奉公人並又ものは不及書出候惣て拜領高之外新田等高は不及記町歩計可被書出候但無高にて反別計之新田も可爲同然候

右書付之儀に付難心得事候はゝ御勘定所え可被聞合候書付は下之御勘定所え可被出候以上

丑六月

覺（廿九日發布采邑田、國戸口注記條目）

一諸國領知之村々田畑之町歩並人數等可書出旨先達て相觸候尤高之儀は拜領高新田高共に書載被申に不及候右いづれも町歩此度被改候儀にては曾て無之候

一百姓町人社人男女僧尼等其外之もの共迄惣人數書出候付是又此度被改候には不及候其所々に相知有之候帳面之人數可被書出候尤二重に不成又は不殘樣可被相心得候

一人數之儀去年分成共當年分成共委く相知れ候人數高認可被出候左候はゝ何の年之人數高に候との儀可被書載候且又何歳以上認候と申はけ書加可被差出候

但奉公人並又もの書出不及候旨相達候は勿論武家方計の儀候

右之外にも若難心得儀も候はゝ猶又御勘定所え可被聞合候以上

丑六月

廿七日上山庄左衛門ニ公儀人ヲ命ス

廿八日閣老公儀人ヲ招キ本年正月十六日深川萬年町町醫中島隆碩夫婦ヲ殺害シ逃亡セシ下人直助搜索ニ關シ人相書交付セリ

七月三日眞鍋吉兵衛所帶方ヲ免シ矢島作右衛門ニ後任ヲ命ス

廿五日當島宰判ニ以テ扶持方切米給與ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一阿武郡當島湯淺八郎兵衛宰判所住宅人大分に付地下拂之御米多令不足毎年切手當替相成春夏に至り請米等就被仰付當島住宅之面々可請取時節令延引難儀仕候其上持運ひ百姓迷惑之儀候依之今度僉議被仰付候處先年地下令住宅近年出萩仕候得共前々分の行縣を以或は堪忍料御浮米御扶持方御切米等於地下取來之由に付改被仰付現住宅人之外住宅分にて取來候分地下にて勘渡不被仰付候事

但金谷雜色町川島川添住宅人之儀も堪忍料御扶持方御浮米御切米共地下に
て勘渡不被仰付候事

一本人者在萩候得共妻子又は親兄弟等縁を以地下に置候衆之儀於其所勘渡米一
切不被仰付時は面々可爲迷惑候條左樣なる類は相當之分扶持分米以御了簡可
被差免候左候はゞ諸組證人中ゟ申出之辻湯淺八郎兵衛ゟも地下令讃談双方之
申分於無相違者人數相當之分扶持分米等於地下勘渡之可有沙汰候事

一地下にて下屋敷所持仕下人等差置候衆飯料又は手作抔有之候て御年貢差引仕
抔と申類之儀は一圓不遠沙汰候事

右元祿十三辰年改被仰付候處に其後逐年令混亂二三年以來就中地下拂之御米過
分相成分迷惑廉有之候付て此度改被仰付當九月ゟは地下居懸り之住宅之外當島
にて御扶持方勘渡不被仰付候當堪忍料并御浮米切米之儀も諸組一列之圖取石
を以被渡遣候付湯淺八郎兵衛方えも沙汰被仰付候間此段支配々々えも御沙汰
候樣にとの御事

享保六丑七月廿五日

閏七月十二日島田孫助歸府（去年七月廿日萩ニ至ル）

十四日刑罰之制ニ關シ三奉行ニ令ス（德川十五代史）

主親ヲ殺セシ者ノ死骸ハ鹽漬ニシテ磔ニ處スヘシ關所破謀判モ同シ亂心ニテ主
親ヲ殺シ又ハ放火セシ者ハ死罪人ヲ殺シタルハ亂心ト雖モ下手人タルベシ

廿一日宇野與一右衛門之手元役ヲ免シ遠近方脇八郎右衛門ニ後任ヲ命ス周田孫兵
衛ニ遠近方ヲ命ス

廿四日寶心院殿（永田馬場夫人）之位牌ニ裏老入江四郎兵衛供從萩ニ抵ル龍昌院ヘ入寺石塔
ヲ建テ供養修セラル

廿五日評定所ニ目安箱ヲ出シ庶民之言路ヲ開ク（德川十五代史）

一此度日本橋ニ高札相建候右之趣相心得可罷在候右札ニ有之通直訴場モ相極リ
候上ハ此以後捨文ハ勿論外ニ致直訴間敷事

覺

一近キ頃ハ度々所々エケミヤウ幷住所等コレナキステフミイタシ法外ノ事共モ有之候依之評定所ニオキテ當八月ヨリ毎月二日十一日評定所ソトノ腰カケノ内ニハコ出シ置候間書付持參ノ者右之箱ニ入申ヘク候刻限ノ儀ハ壹九ツ時迄之内差出ヘク候カクノコトク場所サタメ候ウヘハホカニステフミイタシ候トモ取上コレナク候間其趣ヲ存スヘク候右之通一同ニ承知候タメ此所ニタテオク者也

一御仕置筋之儀ニ付御爲ニナルヘキ品之事

一諸役人ヲハシメ私曲ヒブンコレアル事

一訴訟コレアル時役人センギヲトゲズ永々捨置ニオキテ直訴スベキムヲ相コトハリ候上出ヘキ事

右之類直訴スヘキ事

一自分タメニヨコシキ儀或ハ私之イコンヲ以人ノ悪事申マジキ事

一何事ニヨラス自分タシカニシラザル儀ヲ人ニタノマレ直訴イタスマジキ事

一訟訴等ノ儀ソノ筋々ノ役所ヘイマダ申出ザルウチ或ハサイ許イマダスマザルウチ此兩ヤウ申出マジキ事

一惣シテアリテイヲ申サズスコシニテモ事ヲ取ツクロヒキヨセッ書ノセ申間敷事

右之類ハ取上ナシ書物ハ則燒捨ヘシ尤タクミ事ノ品ニヨリテ罪科ニ行ルベシ書物ハカタク封シモチ來ルヘシ訴人ノ名幷宿書付コレナクハ是又取上サル者也

丑閏七月廿五日

廿八日内外諸門定書ヲ令ス其文略德川十五代史

八月五日東叡山火之番ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

東叡山火之番　　松平民部大輔

出火之節被差出候人數　　騎馬何騎程

右人數書付可被出候

一騎馬　歩行立侍足輕中間其外又もの迄惣人數も書付可被出候　歩行侍何人程　足輕何人程　中間何人程

廿九日是歳六月幕府諸國田圃戸口註記錄上スヘキ令アリ是日上陳大略左ノ如シ

兩國高三拾六萬九千四百十一石

内現地

周防國六郡合田畠貳萬七千七百三十五丁四反九畝

拜領高ノ外新田畠千八百四十四町二反七畝七歩

人員合二十六萬二千百二十四人男十一万二千七百九十七人女九万九千三百二十七人

右兩國内毛利讃岐守毛利三次郎分配地所ヲ合セテ總計如此也

行相府記錄　坪檢地之儀三井帳熊野帳江木帳尤其後貞享年中御内檢高を坪逐々有之候此度改候には不逮との御事に候へ共現町歩無之候ては差閊申儀も可有之候間可被差越候由御國え申遣候處に其沙汰相成長府德山岩國へも令沙汰萩迄被差越付現町歩帳相認追て林彌右衛門を以江戸へ被差越八月廿五日令着候然共逐々御並方聞合被仰付候處一向現町歩被差出候にても無之薩摩陸奥なとも現町歩にては無之由候三井帳之町歩にて不被差出候ては御末家方とも符合不仕旁彌三井帳之帳歩に可被仰付旨にて其通被差出相濟候事

田畑町歩人員提出ニツイテハ行相府記錄ニ地江戸往復簡牘等詳細之調書アリ長文ヲ以テ略ス

九月二日大目付回狀左ノ如シ

覺

御鷹之餌鳥只今迄は國々限なく御餌差幷弟子餌差共相廻り鳥取候樣に相聞え候得共關八州計にて御鷹之餌鳥取其外えは不相越筈に候間御餌差と申者參候はゞ召捕可申候

丑九月

三日將軍へ重陽之小袖五ツ献セラル閣老以下贈物例ノ如シ

六日松平大隅守ヨリ皆姫へ采納ノ式ヲ行フ吉元公記

十五日荻生惣右衛門茂卿ヲ老中ノ宅ニメシテ六諭衍義ヲ譯進セシム此書ハ琉球人程順則カ清主ノ頒チシ六諭衍義ヲ譯セシニテ薩摩ヨリ献セシ所ナリ德川十五代史

廿六日譜代諸大名及諸有司ヲ黒書院ニ召シテ面諭アリ德川十五代史

晦日妙壽寺殿隆元公室百五十回忌山口妙壽寺ニ於テ法會修セラル

日不詳國内藏入給領竹木伐採ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一御國中御立山其外漸々切荒到頃日は御用相調候材木も不如意相成百姓通用之材木も無之故度々沙汰被仰付役人をも被差出儀候取分海邊之儀は船中上下目懸之事候得共材木不如意成計にても無之御國之見入不宜儀候條一入念ヲ入御藏入給領共竹木不荒樣心遣仕候事肝要之儀候事

一右之通御兩國一統に竹木政道被仰付候内海邊之儀は取分被入御念儀候其上三田尻ゟ大島郡迄海上見懸之山之儀は御藏入給領共賣拂抔仕候儀は堅可被差留候雖然無據子細にて賣拂候歟又は修補切不仕候ては向後其山盛長之障相成候に極り候はゝ採用之儀申出候上御藏入給領ともに其村之庄屋役人幷其郡被付置候山方役人又は佐伯武兵衛出合見分之上愈採用不仕候而不相成子細次には向後山盛長之障不相成候段相極候はゝ其上にて可被差免候事

右之通支配々々えも可有沙汰候以上

享保六丑九月

十月朔日先ニ譜代之輩ニ面諭アリシ辭ヲウツシサ外樣大名ニ戒諭ス德川十五代史

同日公登營ノトキ從者之制ニ關シ閣老讀知書付左ノ如シ

覺

一諸大名參勤之節從者之員數不可及繁多候旨　御代々御條目にも被　仰出候然所在江戸中御番所火番等被　仰出候付人數多差出候依之自今以後在江戸相應

に大概人數之御定被　仰出候事

一近年は江戸にて御用被　仰付候節下人之内え雇人を差加え勤させ候樣に相聞候向後右體之儀堅無用に候殊に今度人數之儀被仰出候上は御定之通急度人數召置可被申候若又少々餘之人數有之候とも差置被申間敷候尤不相應之場所は被仰付間敷候萬一人數御用之時は勿論領内ゟ人數召寄御軍役之通堅可相勤事

貳拾萬石以上

馬上拾五騎ゟ廿騎迄

但自身召連候共

足輕百二三十人

中間人足貳百五十人ゟ三百人迄

拾萬石

馬上拾騎

足輕八十人

中間人足百四五十人

五萬石

馬上七騎

足輕六十人

中間人足百人

壹萬石

馬上三四騎

足輕二十人

中間人足三十人

一只今迄小人數にて被相勤事濟候場所は尤其通たるへき事

一廿萬石以下此外之知行高は右御定に準し心得可被申事

以上

丑九月

二日中條對馬娘吉川左京へ緣職許可アリ

十日目付平岡市右衛門下馬所之制ニ關シ交付書付左ノ如シ

口上

今度大手櫻田下馬立之樣子前々と違候只今は御番所ゟ番人並足輕等差出不作法無之樣に制候へ共向後は足輕等少々差出下馬之印迄指置候筈成候間供之內頭取候者其外末々迄不作法に無之樣に御申付可被成候御番所よりは制不申若不作法にも有之者も候はゝ御番所之者ゟ主人之名承申立候筈候間其御心得御家來え急度可被仰付候右之趣私共方ゟ相達候樣にと戶田山城守殿被仰渡候以上

平岡市右衛門

稻生次郎左衛門

十月

十一日閣老公儀人ヲ招キ交付書付左ノ如シ

松平民部大輔

上野火之番之面々唯今迄は其方角火事有之候得は主人早速被罷出候へ共向後は御山之內え火入候歟又は御山之內より出火有之候共小火之時は主人被罷出不及家來計可被差出候尤　御佛殿等氣遣敷樣子候得は年寄共も罷越事候間左樣之程を見合可被罷出候

十五日正燈院天滿宮祭禮行幸神事許可アリ

十九日下馬所之制ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

追手

一今度下馬札前々之所とは違拾間餘下り候間出仕日並常日共に右下馬札前に而下馬鑓引馬共相殘し可申候東之方ゟ參候者酒井阿波守辻番前通り下馬札見通に而右之通可相心得候

但常日は鑓引馬等腰懸之內え入置候儀不苦候退出之節は鑓馬共に下馬所え下け供可仕候

一御壘藏脇に下馬札立候間常日共に右下馬前にて鑓引馬共に可相殘候腰懸え入候儀は同前之事

内櫻田

一今度下馬札南東え貳拾間程下り兩所え相立候間常日共に右之所にて下馬鑓引馬共に殘置可申候事

右は來る廿一日ゟ下馬札相立候間可得其意候以上

廿二日付平岡市右衛門交付書付左ノ如シ

追手

一出仕日之節腰掛前立番有之所え徒士等殘し竹橋之方え退出之面々は御堀端供廻り罷在候所え退出前徒士遣し置可申事

但御壘藏之方常盤橋之方え退出之面々は腰掛之前之内にて其向寄之方え徒士等廻し置可申事

内櫻田

一出仕日之節外櫻田之方え退出之面々は徒士其外供廻共に御堀端之方に可指置候事

但馬場先和田倉之方え退出之面々は東之方供廻り罷在候内にて向寄之方え廻し置可申事

右之通戸田山城守殿被仰渡候以上

十月　　平岡市右衛門

稲生次郎左衛門

廿五日付稲生次郎左衛門交付書付左ノ如シ

出仕之節内櫻田御門より登　城之方々只今迄は松平肥後守殿屋敷後西角ゟ筋違に登　城候得共向後は御門見通しゟ眞直に登　城可有之其段向寄へ可通候以上

右之通被仰渡候以上

十月廿五日

日不詳萩城東御門勘過切手番頭ヨリ提出仕法ニ關シ遠近方齋藤伊右衛門ヨリ證人へ交付書付左ノ如シ

御城大組御番衆御門出入切手調仕法

入切手　何某

右今夜　御城内廻番被仰付候條御門勘過之沙汰可被仰付候以上

何某

月　日　番頭

御門預りえ當る　何某

出切手

右今夜　御城内廻番被仰付候條御門勘過之可有御沙汰候以上

何某

何某

番頭

何某

御臺所御門番え當る　何某

出切手

右明何日何方え　御名代に被指出候付爲用意今日今晩下宿被仰付候條御門勘過之沙汰可被仰付候以上

月　日　番頭

御門預りえ當る　何某

出切手

右居宅近火に付下宿被仰付候條御門勘過之沙汰可被仰付候以上

何某

月　日　番頭

御門預りえ當る

洪水病氣等之時も右に准し　御城當番之衆御門出入切手之儀御吟味之上別紙文言之通被仰付候條向後右之格を以被相調候樣との御事

但右一卷書付に此覺書相添享保六丑十月四日益織部殿於御宅八組月番證人桂四郎兵衛え遠近方相渡之候番頭ゟ差出候案文之寫

手形

何かし
何かし
何かし
何かし
何かし

以上何人

右之衆中今晩ゟ出番に候間明朝ゟ來何日之朝迄食代り往來御門可有勘過候以上

ひよみ月日　　番頭名印

東の御門預り　　何かし者壹人

何かし殿

夜切手

右彼方當番付留守ゟ不相叶急用有之御番所え申遣候間御門往來可有勘過候以上

月　日　　番頭名印

東の御門預り

何かし殿

右之通相調來候得共文體各未定奉存候付御問申上候尤此外追々申上儀も可有御座候以上

右之通番頭衆ゟ申出候由に而月番梨羽頼母組證人林久左衛門ゟ相渡候付先格爲

見合東御門定番都野五郎左衛門え申達前々之切手拾通計取寄見合候處何も可有御通候可有御勘過候なとと御の字有之候其内壹枚丑ノ九月之切手粟屋縫殿印形之分に可有勘過候と有之候右之趣を以相伺候處此間夜廻切手等之調方之案書にも御の字有之儀候間其通に勘過之可有御沙汰と相調可然候間其段申達候樣にとの御事に付林久左衛門方え申達候事

享保六丑十月十三日　齋藤伊右衛門

右御門ゟ一卷は御當職所に而諸沙汰尤落着相成候付前後一卷之扣等御當職所に有之候遠近方には前書之入切手出切手之仕法證人え相渡候扣有之候此外は無之候事

十一月六日將軍鷹捉ノ雁ヲ賜フ此日祝宴ヲ開カル

同日百合助君五歳袴着乃美藏人子孫繁昌ニツキ上下ヲ献上ス

十七日今秋暴風及蝗害田圃ノ損失高三萬石餘其他被害若干ヲ幕府ニ上陳セラル

廿日長門國之内豐浦郡閖七月八日大風雨之時田畑被害毛利讃岐守ヨリ幕府へ報告左ノ如シ

一田畠高三千八百石餘　當荒

内

田高三千石餘　永荒

三千二百石餘

六百石餘

一倒家百九十五軒百姓家町家共

一倒木五百八拾本

一土手崩九百六十間

日不詳濱之手松原口南御門夜中通行禁止訓令左ノ如シ

覺

一濱之手松原口南御門之儀夜中通路不被仰付候處夜中濱之手に彳居候者折節有之由相聞候向後夜中大小屋之物通りゟ西之方へ罷越候儀停止被仰付候若此旨

相背罷越候もの有之候はゝ可被行嚴科候事

享保六丑十一月

十二月三日節句儀物之華美ヲ禁ス令文左ノ如シ

覺

一破魔弓

金銀之箔幷かな物無用たんろくしやうにて彩色可申候惣體菖蒲甲に可准事

一羽子板

飾に用ひ候大き成羽子板幷はね自今可爲停止常用ひ候羽子板にいたし尤結構に仕間敷事

一雛

八寸より上可爲無用近年結構なるひな段々有之候間次第を逐而輕く可仕事

一同諸道具

梨子地は勿論蒔繪無用に可仕候上之道具たりとも黑塗に可仕候金銀のかな物可爲無用事

一子供もて遊ひに致し候人形八寸より上は仕出し申間敷候惣而翫ひの作り物の類自今金銀の彩色金入並純子等の衣裳又は人形類臺に載せ候儀一つ宛載せ候は各別二つより上載せ候作り物無用に致し都而結構に仕間敷候右之通來寅正月より急度可相心得候有來候作り物之類當年中商賣之儀は勝手次第に可仕來年よりは有合候とても右之品々商賣致し候儀可爲停止事

右の通先達而町奉行え申渡候左候得は來春よりは不用譯に候間獻上等にも致間敷事候可被存其趣候已上

丑十二月

四日諸臣諸御禮代納付期限訓令左ノ如シ

覺

御家來中諸禮代近年金銀狂ひに付て暫員數被相改候得共來寅之正月御禮代なは諸御禮代古來之通被召上候事

附御禮代上納之儀前々被　仰出候通御禮日以後五日切被仰付候事

享保六丑十二月四日

十日江戸大火

十六日御中間以下御雇之内ヨリ代役ヲ出ストキハ先ツ支配方ヨリ申告スヘキ訓令左ノ如シ

覺

御中間以下御雇者之内病氣其外樣子有之代役を差出候者有之候はゝ先支配方ゟ可申出候尤此儀に付而御咎もの無之事候御雇之者えも銘々御尋被仰付儀候條若隱候而不申出追而相知候はゝ組之役人越度可被仰付候尤付出之儀來る廿日を切可被差出候事

享保六丑十二月十六日

十八日毛利山次郎從五位ニ叙シ但馬守ニ任ス

日不詳安德天皇陵墓ニツキ京都町奉行ヨリ尋問アリ應答左ノ如シ

一長門國赤間關之儀は毛利讃岐守樣へ御分地に而有之候哉之事

一同所海中

安德天皇御入水之所今以相知居申候哉尤其場に印など有之候哉其所船など乘候事遠慮等仕樣に御座候哉之事

一右之場赤間關え付居讃岐守樣御領之内にて御座候哉之事

右之答

一長門國赤間關は毛利讃岐守え配地に而御座候

一同所海中

安德天皇御入水之所赤間關壇之浦沖之湖中に沖のたふ岡のたふと申候而兩所共に拾間四方計之深み御座候汐曳候時は相見申候沖之たふにて　天皇御入水岡のたふにて一門入水之由申傳候尤其所に印は無御座候但赤間關之内壇浦と申所え道下に烏帽子岩と申岩御座候其岩ゟ岡のたふへ拾四五間程御座候沖之たふへ岡のたふより拾四五間程御座候

一諸船往來之節遠慮仕と申事無御座候

一右之場讃岐守へ配地之内にて御座候事

右之通從國元申越候以上

月日不詳吉元公記

御家來中高百石に付現米三拾石手取五石旅役出米五石引米

岩國百姓騷動不得止彼家老ゟ發頭人此御方え付出仕候依之百姓百三拾六人三年

已前より萩御呼越船藏え被爲置候番人被成御附都合にして物頭被差出候爰元に

て林八右衛門蜷川權左衛門を以段々御究被仰付銘々口書相調百姓中輕重之科に

よつて貳拾壹人遠島八人籠舍八人誅伐被仰付候九十九人は無別條岩國被差返候

右之趣三月朔日被仰出宿戻り之百姓共押して都合役佐世七郎左衛門御中間頭兩

人參申候七郎左衛門儀於岩國家老中え右之段申聞同四日於玖珂百姓中引渡申候

事近年銀子狂ひに付夏米高直に相成四貫銀百目に付貳斗貳三升仕候

大組之面々御城番之節寺社え御名代共外にても相當時は前晩ゟ支度として御了

簡を以罷下り候所四月滿願寺え之爲御名代桂與三右衛門被仰渡候故前晩粟屋縫

殿切手を以罷下候六月音聲寺え之爲御名代井上與三右衛門被仰渡前晩番頭毛利

三郎左衛門切手を以罷下候前之番頭ゟ切手之文體に何某儀就御用被罷下候間御

門勘過被仰付候樣にと相調來候所此度兩番頭ゟ切手に何某罷下候間御門勘過被

仰付候樣にと相調候旨桂與三右衛門井上與三右衛門銘々組頭え申出候番頭申方

被開召候所舊格を以切手調之通申候所一圓舊格にて無之段慥成扣等も有之候付

八組一同に騷動仕心外存候付桂井上不得止事御理申出候段御沙汰之上向後は番

ゟ切手文格御新法被仰出何某事就御用御下被成候間と被仰出候て此出入相濟

候此儀は八組一同にて殊の外騷動仕大事にて候御留守年御加判毛利筑後毛利伊

豆御兩人御沙汰御尤と取沙汰仕候此一件入組たる儀候得共大辻記證候事

明倫館目安箱出ル

北ノ濱植松

御家老中假養子之法出ル

住吉祭禮踊車萩市中貳十八丁之内兩丁宛仕出ス一二之次第圖取今年ハ初ル下五
間町津守町

毛利十一代史卷之五十三

大田報助編次

泰桓公記十三

享保七年壬寅正月朔日公江戸ニ在リ

十五日ヨリ毛利讃岐守匡廣疱瘡廿二日酒湯

二月十三日北品川抱屋敷千五百拾八坪前年購求家屋ヲ作造シ永田馬場夫人ヘ進セラレシニ夫人モ卒去不用トナル北品川村元地主宇多川權右衛門息權兵衛ノ請願ヲ納レ屋敷地ヲ附與セリ

廿二日科人追放ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

科人追放之事

右科之品に依て扶持を召放候歟或は家財闕所又は其品輕くは過料等それ〳〵に可被申付儀は勿論に候件之惡事有之候もの領内に差置候を嫌ひ他所へ放遣

候儀は有之間敷事に候近年於　公儀は追放者先は無之樣に被仰付候間於國々所々其旨を存猥に追放有之間敷候然共喧嘩などにて双方疵付候者歟又は侍など品により追放申付却て可然趣も可有之候間其段は格別之事に候

右之通可被相心得候以上

寅二月

廿七日弘甚兵衛育宗周行狀不良ニッキ遠島ノ請願ヲ許可ス

三月朔日村上又右衛門公歸國中麻布邸在勤ヲ命ス

十一日毛利讃岐守匡廣乘船四月七日着府

十五日法會參會之勅使下向ヲ辭シ爾來以テ例ト爲シ又法會幷贈遣獻物等ヲ省キ佳節獻上物モ亦之ニ準スルトノ令訓左ノ如シ（從公儀出御書付）

覺

一御代々御年忌御法事之節毎度　勅使被仰付候得共衆々思召之品有之付て當四月之御法事ゟ御辭退被仰上候且又讀經之儀も自今已後は千部を限り或は三百部或は百部可被仰付候間私之法事も準之分限相應に可致修行事

但作法等は略すべからさる事

一近代禮物等莫大之品多く末々之輩に至ては外をかさり實儀を失ひ候事共に候條是又減少被仰出候大概別紙に有之事

右禮物法事等之品今度先被仰出候其餘家内之事におゐては尤面々覺悟あるべく候或は儉約に事を寄せ禮儀を麁略し却て自己の榮耀を好むの儀猶以愼み有べく候

以上

寅三月

被下獻上御禮物員數減少之覺大概

只今迄　　此度より

一金百枚以上は　　拾枚

一同五拾枚は　　五枚

一同參拾枚は　參枚
一同拾枚は　貳枚
但五枚已下は壹枚
一銀千枚以上は　百枚
一五百枚は　五拾枚
一同參百枚は　參拾枚
一同百枚は　貳拾枚
一同五拾枚は　拾枚
一同參拾枚は　五枚
一同拾枚は　參枚
但五枚已下は壹枚
一時服百以上は　縮緬紗綾之內參拾卷
一同五拾は　縮緬紗綾之內貳拾卷
一同貳拾は　縮緬紗綾之內拾卷
一同拾より五ッ迄は　縮緬紗綾之內五卷
一同四ッは　縮緬紗綾之內參卷
一同參ッ貳ッは　縮緬紗綾之內貳卷
一綿參百把以上は　五拾把
一同貳百把は　參拾把
一同百把は　貳拾把
一晒布百疋以上は　參拾疋
一同五拾疋參拾疋は　貳拾疋
一同貳拾疋は　拾疋
一同拾疋は　五疋
一此外領內土產物献上是又減少之筈に候幷常式に而も御樽肴之外領分土產に
あらざる物は献上相止候事

一惣て數種差上候類は其品之内減し申筈候事
一端午重陽歳暮時服數之儀大身小身共一重宛可被差上事
一隠居幷遺物御道具類献上相止候事
一香奠被下候儀右白銀減少之員數たるへき事
一御褒美又は公役に付臨時之被下物は只今迄之通たるへき事
右之通に相極候間私之禮物等も右に准し可申候且亦献上物之義改り候事に候間此砌は其時々月番之老中へ可被相窺候事

以上

寅三月

前記倹約令發布ニツキ領國内諸臣へ内訓左ノ如シ

今度御倹約之儀に付天下より御書付被差出萬右之通御内意申候樣にとの御事

四月

行相府記錄年中献上物閣老へ伺書及吉川左京ヨリ献上物等詳細ノ記乗アリ繁文ナレハ畧ス

廿八日令ス德川十五代史

武家奉公人酒狂ニテ疵付シ者ノ過料療治代ノ制定ヲ定ム

日不詳神社寺院御名代衣服等之制訓令左ノ如シ

一例年神社祭禮御名代
一御佛樣正御命日例月御代參
右之類只今迄半袴絹布之類は就も絹布を相止木綿衣服に被仰付候此外長袴著用仕來候分は衣服只今迄之通被仰付候事
一例年千部御祈禱之節御通ひ木綿服に長袴にて候へ共向後木綿服半袴に被仰付候事
御正統樣御正命日
一僧員一山其外御位牌所中幷道場え末寺計集會被仰付之一派無縁寺は差除候樣被仰付候事
一御靈供少く輕樣被仰付候事

一御齋一汁三菜に而冷汁減少之事
一御亡者樣御由緒之者之儀も可成ほとは減少仕候樣被仰付候事
御枝葉樣方御正命日之事
一僧員一山切に被仰付候事
一御齋一汁三菜に而冷汁減少之事
一御靈供輕仕候樣被仰付候事
一御亡者樣御由緒之者之儀も可成ほとは減少仕候樣被仰付候事
右之通大概被仰付此外本寺〳〵之御書付之通を以夫々於寺吟味を加諸事輕仕被仰付違戻不仕樣可被相心得候事
四月六日田畝質入之制ヲ定ム令文畧德川實紀
十三日公歸國暇ヲ賜フ
十五日幕府熊野三山ノ社修營勸化ノ事ヲ令ス因テ銀拾五枚公及家族ヨリ同拾枚諸臣ヨリ同拾枚寺社及町村ヨリ寄附
同日公歸國ノ時京都藏屋敷一泊所司代ヘ伺候ノ件等伺書認可アリ
十六日有章院殿家綱將軍七回忌增上寺ニ於テ法會アリ五月朔日香奠銀五枚納付最前ハ白銀貳拾枚納付之處今回ヨリ五枚ニ減少セラル四月廿九日ヨリ曉日ニ至ル氷上山眞光院ニ於テ法會修セラル
同日書ヲ當番閣老ニ呈シ百合助君時ニ八歲寅六歲ヲ以テ儲嗣ト爲ラル前年吉元公嫡子完元君卒ス故及此儀此後嫡子成ノ願ナシ
十八日世木茂右衛門平古町ニ於テ立番ノ慮外ヲ咎メ之ヲ蹴倒ス不法之所爲ニツキ逼塞ヲ命シ免職
廿一日乃美仁左衛門ニ江戸留守居ヲ命シ黑印令條ヲ授ク
廿三日公江戸發途
日不詳目安箱投書之制ヲ定ム德川實紀
此月令せらるゝは訴訟箱へ申文投ずるは政務の爲にもなるべきことかあるは諸有司私曲非分の事を直訴するか且上裁をこふ事ある時有司査檢をとげす遲緩せん時は直訴せん旨を其廳へ告て後に箱へ投ずべし其旨去年日本橋の高札にも書

載られしに心得違ひ各廳へ訴へ出べきことを其廳には申さずしばしば箱に投ずるとありたとへば市井その外下民惠恤になるべきことかあるは訴訟して上裁を仰ぐ事かあるはみづから所願の事は各その廳へうたへ出ば査撿あるべきなりしかるを一度も訴へずみだりに箱に投書せば上裁あるべきことも査撿加へらるまじければ其旨心得べしとなり

五月八日公歸國ノ途次大坂ヨリ堺住吉社ニ謁セラル

十日養子之制ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

養子いたし候もの若養子を返し候儀有之時最前養子いたし候以後實子出生候共其實子家督には被仰付間敷候間又養子を可奉願候然とも右返し候養子何とそ行跡惡敷候品有之歟病氣にて決て御奉公難成儀に相極養子返し候はゝ頭支配とく と承屆實方へも相尋無相違候はゝ其品申上頭支配より實子を家督に可奉願候輕き病氣又は養父之心に叶不申一通り之儀迄にて養子返し候跡は實子に家督被仰付間敷候但右實子御奉公被仰付間敷との儀には無之候分知奉願候歟外え養子なとに遣し候儀は可爲勝手次第候以上

寅五月

十七日閣老井上河内守正岑卒ス（公河内守トハ實方ノ親類從弟遠ナリ）江戸三邸三日間鳴物停止法會ノトキ香銀拾枚贈ラル

廿一日安藤對馬守閣老ニ任ス太刀一腰馬代黃金拾兩贈ラル

同日公歸城

廿三日在郷住宅及旅役留守又ハ幼少者家屋貸ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一在郷住宅罷越候衆又は旅役之衆其外幼少之衆親類一所に罷居居屋敷他人え貸申衆有之候先年被仰出候通二竈之外貸申儀御法度候事

附誰に貸候通屋敷奉行え可相屆旨先年も申觸候愈以居屋敷預け候はゝ何某に貸渡候越可被相屆候尤借主替候はゝ是又可被相屆候若不心得にて付屆無之候者可被遠御汰沙候事

一古屋敷之儀は家作無之と候ても一旦居籠候段者無紛候得共家作無之明屋敷之分は被召上候段古來ゟ之御法之儀候間愈家作不仕分は可被召上候事

一新屋敷古屋敷共家作有之候ても人に預け置候歟又番人等差置候ても常々門なと立込居申屋敷も有之由相聞候向後左樣之屋敷之分は可被及御沙汰候事

一普請作事等之節外輪圍ひ仕候儀屋敷方え相理筈候へ共不及其儀圍ひ仕衆も有之樣相聞候向後時々屋敷方え相屆候上圍ひ可被相調候事

右之通前々ゟ之御法之儀候へ共又々相觸候若不心得之衆有之候はゝ急度可被及御沙汰候以上

享保七寅五月廿三日

六月三日側醫中村玄春公歸國ノ時播州坂越高鳥峠ニ於テ通シ六尺三四郎慮外ノ行動ヲ怒リ手討ニス下層ノ上層ニ對シ慮外セシトキハ上層ノ爲ス所ニ任シテ問フ所ナキ慣例ナルモ玄春ノ舉動其當ヲ得ザルニ由リ職務ヲ免ス

十三日ヨリ十四日ニ至ル幸松丸君二百年忌秀岳院ニ於テ法會修セラル米拾俵銀七枚納付

十五日御部屋番頭中井貞右衛門ニ奥番頭ヲ命ス

十六日當職益田織部辭職ヲ許シ後任ヲ浦圖書ニ命ス織部ニ刀一腰代金拾枚下付

廿二日完戸主計八十歳隱居之請願ヲ許シ嫡子美濃ニ家督ヲ命ス拜謝ノ爲メ美濃ヨリ太刀馬代樽一荷二種刀一腰三原代金廿五兩献ス

廿三日完戸櫨之助裏判役ヲ免シ後任ヲ口羽衛士ニ脇八郎右衛門手元役ヲ免シ後任ヲ長沼太郎兵衛ニ坂九郎左衛門用所役ヲ免シ後任ヲ右筆津田五左衛門ニ命ス山縣藤助ニ右筆ヲ命ス井原助之進ニ粟屋縫殿代リ小川貞右衛門ニ粟屋彌九郎代リ二宮太郎右衛門ニ井上善兵衛代リ表番頭ヲ命ス大組福島五郎左衛門ニ目付役ヲ命ス手元役坂九郎左衛門ヲ免シ皆姫婚儀掛ヲ命ス

廿九日兒玉傳右衛門町奉行ヲ免シ後任ヲ井上牢右衛門ニ命ス林三郎右衛門郡奉行ヲ免ス奉行廢止裏判役兼務トナル八木甚兵衛藏元兩人役ヲ免シ後任ヲ中村孫右衛門ニ遠近方周田孫兵衛ヲ免シ後任ヲ山縣市左衛門ニ兒玉傳右衛門町奉行ヲ免シ後

任ヲ井上半右衛門ニ命ス當島代官湯淺八郎兵衛ニ作事方ヲ上關代官河野茂兵衛ニ當島代官ヲ赤川又兵衛ニ上關代官ヲ裏判役口羽衛士ニ郡奉行ヲ兼シム

七月朔日我藩知行高國付明細書錄上スヘキ大目付ヨリ通牒ニ因リ提出書左ノ如シ

本國安藝　養父大膳大夫吉廣　實父毛利甲斐守綱元

一高三拾六萬九千四百拾壹石長門周防兩國一圓從四位下侍從松平民部大輔

生國武藏　居城長門萩　寅ニ四十六歳

內證分

高四萬七千三百四拾九石八斗四升五合長門國ノ內毛利讃岐守

高三萬石　周防國ノ內毛利但馬守

享保七壬寅年七月朔日

同日完戸美濃ニ來年江戸供從ヲ命ス大組物頭赤川半兵衛ニ桂仁左衛門代三田尻頭人ヲ內藤新右衛門ニ大組弓頭ヲ命ス

同日上勘矢嶋作左衛門ニ眞鍋吉兵衛代御所帶方ヲ粟屋五郎兵衛ニ中山忠左衛門代山口代官ヲ井上宇兵衛ニ神村喜兵衛代吉田代官ヲ命ス其他代官檢使等交迭アリ

三日幕府倉廩頗ル窮乏ニ即キ石高百分一之稅米ヲ諸大名ニ課ス

同日課稅ニ依リ諸大名參覲交替之期ヲ改ム德川十五代史

覺

一參覲御暇之儀只今迄外樣四月御譜代六月交替被仰付候得共向後ハ一同ニ三月中九月中交替可被仰付候事

一嫡子御暇被下候者其父在所到着以後六十日過候而可致參府候事

一在所又ハ居所有之面々ニテモ幼少若年之者ニハ御暇被下間敷候併一年半ハ御暇之格ニ准シ御門番火之番等被仰付間敷候尤半年宛在府之格ニテ右御用等可被仰付候事

一上ヶ米之儀大坂御藏ニ成共當地御藏ニ成共面々勝手次第上ヶ米高半分宛春秋兩度ニ可被相納候事

一當年ハ上ヶ米高半分之積リ秋中可被相納候事以上

七日椿六郎右衛門公儀人ヲ免ス

八日家督其外献上品幷使者飛札之制ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

家督御禮被申上候節之覺

一五萬石以上より御馬可被差上候事

一只今迄眞御太刀被差上候面々自今は作り御太刀幷御馬差上且又御刀可被差上候事

但三拾萬石以上は御馬二疋其以下は一疋可被差上候事

一格別重き御祝儀御禮事有之節は眞御太刀可被差上候此節は御馬鞍置可被差上候事

一御一字被下候節は作り御太刀幷御馬差上且又御刀可被差上候事

一只今迄一同御禮有之節は眞御太刀差上候へ共向後作り御太刀幷御馬可被差上候事

一向後御刀被差上候節は代金貳拾枚迄之内にて可被差上候事

但目貫笄小柄新古之無差別有合を可用候事

一箱は桐白木一重箱たるべく候事

一袋は繻珍段子之内たるへく候事

但銘なと縫付候に不及候事

右之節々金銀絹布綿等差添献上之儀は當春相達候書付之通たるへく候

一總て禮式一通り之品にて取かはし之刀脇差は右に可被准候其外由緒有之道具なとは代付高下之沙汰に不及候條格別候事

以上

寅七月

覺

一國持大名歸國御禮參勤伺暑寒御機嫌伺は可爲使札候其外之御禮事なとは可爲飛札候事

一諸大名は在所到着御禮參勤伺此分計使札其外は可爲飛札候尤只今迄飛札にて

勤來候品は向後も可爲其通候事

一年始八朔之御太刀は萬石以上之面々當地之者を以可有献上候事

右之外おも立候御禮事之節は月番え可被伺候以上

寅七月

十一日養心夫人裏老桂善左衛門辭職ヲ免シ後任ヲ飯尾九右衛門ニ命ス

十五日ヨリ十六日ニ至ル五龍夫人（完戸隆家室）百五十回忌法會執行ニツキ完戸美濃ヘ使ヲシテ銀五枚下付セシム

十六日完戸主計就延死去八十使者ヲ以テ吊問香銀五枚下付

廿日國重三郎兵衛ニ馬場先夫人裏老役ヲ命ス

廿二日毛利主水前髪ヲ執ル

同日周布理左衛門父清右衛門隱居ノ請願ヲ許シ理左衛門ニ家督ヲ命ス清右衛門十七歳ヨリ七十歳ニ至ル五十四年勤續ニ因リ呉服二下付

廿三日毛利飛驛守元次息女稲葉玄蕃正恒ヘ婚嫁ス

廿七日八谷五兵衛ニ楢崎吉右衛門代大坂役雜賀十右衛門ニ飯田六郎兵衛代京都役ヲ命ス

日不詳幕府倹約令頒布ニツキ吾藩諸局費用省略ニ關シ訓令左ノ如シ

當春從　公儀御倹約之御沙汰有之其旨に應し何方も萬端吟味被仰付之由相聞候就中此御方之儀數年之御逼迫別て御不如意之時節旁々候へは一入御倹約之吟味なみ〳〵にては不相濟儀候間各心遣肝要候面々役所々々にて少之儀にても御費無之樣諸事氣を付被申談身に引懸被致吟味昨日今日まて行かゝり候をもきつと相改候樣に無緩せ被致吟味各手子中下手子末々迄も右之心得とくと被申聞壹夜心懸緩之儀にても吟味を盡し身に引請心遣仕人のにくみをもかへりみす御爲宜樣に可相勤之由可被申聞候事

以上

享保七寅七月

日不詳萩濱崎町人山縣十左衛門父文左衛門以來數十年諸人ニ抽テ當用銀ヲ提出ス

今秋ヨリ用達命セラレ多大ノ銀子ヲ調達シ財政ノ缺陷ヲ補フニ因リ米七拾俵下付
八月九日熊谷帶刀大番頭ヲ免シ口羽六兵衛後任ヲ命ス帶刀ニ召下羽織下付市川七
右衛門直目付役ヲ免シ召下帷子下付
十九日時節之衣類着用スヘキ内訓左ノ如シ

覺

帷子着用之時節時々之かんあひを以上着なしに袷なと着用の儀も有之略儀之體
如何敷相見候御番所御役は不及申私之勤たりとも御家人之儀はいつれも如古來
可有之儀候條此段御内意申達候樣にとの御事

享保七寅八月十九日

廿日各邸附屬之輩ヨリ土宜献上ニ關シ訓令左ノ如シ

上々樣方え御付々之面々被差越候節御土產物献上仕老女中其外えも音物差遣候
由候多人數之儀に付造佐入も莫太有之由候間献上之儀は最前も被仰出候通輕き
御國物可差上候尤干肴鹽鳥之類にても不苦候其外は老女中計え右之御殘又は扇
筥等盡送其以下女中等え音物一切停止被仰付候事

右之通被仰出候間　上々樣え御付之面々尤向後御裏付に被仰付候者共え其時々
堅可申聞旨候以上

享保七寅八月廿日

廿二日毛利但馬守廣豐實母ツレ良壽院ト改稱セラル

廿八日毛利伊豆嫡子久之允請願ニ因リ公謁ヲ賜フ太刀馬代小脇差一腰相州正廣獻ス

九月六日參勤伺使者ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

參勤時分之儀三月參府之面々は十一月中被伺候九月參府之面々は二月中可被
伺候

但參勤交代只今迄之通之面々は只今迄之時節に參勤可被伺候

寅九月

一最前は例々はやく御伺可被成哉との儀にて御使者楢崎太郎兵衛儀九月出足被
差越候然處右之通に付十一月迄江戸在番被仰付例之時分に御伺相澄候事

同日財政切迫高百石ニッキ現米十五石宛本年ヨリ三年間課出モシムルニヨリ黒印

令條老臣添書左ノ如シ

年來之不勝手今年に至り別而差閊當暮來參勤之入用を初其手遣相守らさる由に付段々吟味申付といへとも各別之筋これなく家來中より三ヶ年馳走米うくるの儀旁此度浦岡書言上之趣に付猶又詮議申付儉約等の儀をも重疊沙汰せしむるの處に彌別段の儀了簡におよはす當寅ゟ辰年迄馳走を請ふほかこれなく候條其旨を存し漸家人を離さるやうに奉公とくるにおひては本望たるへし近年は重き馳走間もなく度々におよひ止むをえさる儀なかく家中困窮をも顧さるやうに成行寔に於我等心外此事に候偏に身分のかんなんを書すの外他事なしなを仕組の儀におひては委細年寄ともより相達すべき者也

享保七年九月六日　御黒印

覺

一御所帶御差閊の儀に付て去亥子兩年御家來中より出米仰せ付られ漸御取續之方便被仰付候へとも御借銀莫太に付て御繰卷不相成其上新金銀之違大段之儀彼是無據御要用も相積當暮に至り犇と御差閊之事候元來御當家之儀は御配高過分候故年中現御配も多不足有之をのつから年々御借銀相成臨時之御入用も差添旁御差閊之儀に候といへとも累代御家人御配高減少之儀各別可及御吟味儀にて無之候故御代々毎度出米等之御沙汰も有之事に候へとも近年之通り重き御馳走間もなく有之段別而御苦勞に被思召御事候御仕組之儀段々僉議被仰付候處各段之儀無之此度又御家來中出米之儀達　上聞候處御思召に難叶猶又重疊吟味被仰付候へ共不被得止儀に御儉約等之儀御沙汰有之共上年數の儀も省略被仰付當寅ゟ三ヶ年別紙之通御馳走御家來中多年逼迫之儀候へ共何とそ取續御奉公の志し肝要に候事

一病者幼少幷不勝手付而當分御扶持方被下置候面々御馳走之儀は別紙之通增候て被召上候事

一百石已下之衆是又寺社家之儀は隨分際御馳走米被減候是又別紙に有之候事

一御馳走米被召上候ては諸借銀返濟難相成事候依之三ヶ年之間書（虫入）之儀別紙之通被仰付候事

右（虫入）家來中能々被存此趣大小身共可有其心得旨候已上

享保七年九月六日

山縫殿
浦圖書
毛伊豆
毛筑後
完美濃

十五日祐巖公盛德碑東光寺ニ建ッ

故佐渡守大江宗元公盛德碑

公諱宗元。姓大江。父防長二州大藩主吉元公。母備前少將綱政公之女也。以元祿癸未孟陬十九日。生于東都。神彩秀徹。而英氣顯於襁褓之中。齠甫志學。大將軍親祝加冠。特賜宗之字於名上。叙四品。任佐渡守。一日差蒔田讃州刺史。有賜鷹野之雲雀。時人榮之。又且台駕。詣上野日有旨。豫參恩遇之渥。一至於此。公天資仁慈。聰慧邁倫。襟懷浩蕩。德量汪洋。禮貌威容。雅閑進止。如或與列國諸侯。朝班殿上。或坐賓主献酬之宴。望之稠人廣衆之中。則昂々然如野鶴之在鷄群。瞻者以爲範。常事雙親。孝敬以篤。覃思于文武之爲家法。斯須不忘。精探孫吳之術。濟究良平之謀。以開寬裕之路。布仁政於黎庶。安寧家國。而爲念焉。尤善騎射。磬控縱送。自然得其所矣。有暇則嗜倭歌。嘯月吟花。述志所之。且選其能。粹于茲者。爲師。增窮蘊奥。又如書畫。雖不悉殫力。肆習得之於心。應之於手。若修精煉世其業者。無不讓巧妙也。其餘技藝。大槩類此。加之知三寶可以憑。傾心歸敬。積陰德于冥々之中。期陽報于無窮。約已憫人。德惠兼行。溫顏軟語。下心於一切。如春在物矣。至於監大事。決大議。應機通變。如走盤之珠。圓轉無礙。恩必播於有功。不妄加於人。威必加於有罪。不濫及於無辜。故恩雖厚而人無所驕。威雖嚴而人無所怨。是以名翼夙馳。德化遠被。知與不知。靡然嚮風。展如之人。邦家之光也。往歲孟夏。遽沾重疾。炎帝曾嘗之藥。已失其靈。董仙久驗之。方亦虧厥効。大漸彌留。將易簀。邦君母公憂懼之甚。似百箭攢心。告之神明。扣之佛陀。以懇祈保安。然

而死生有命。將奈之何哉。終無何而薨。實享保辛丑四月十九日。後七日葬于武之紫雲院。號祐巖字表賢良。法諱曰淨雄。邦君有命。安公之神位於當山。啓建法會。以資薦冥福。公享年十九。宛若在胎花之含香而空凋矣。誰不嘆惜。邦君毋公固不在言。凡瓜葛之親戚。無勝哀悼。如大小家臣。暨兩國之士民。仰天號慕。府地慟哭。咸言我國我民。有何罪而俾我嬰此羅耶。哀嘆之聲。彌月弗息。草木爲之凄悲。鳥獸爲之哀鳴。蓋夫子之情。千生百刦恩愛習氣之所流注。當是時欲無懊惱。其可得乎。子夏喪明。王衍鍾情。是乃天理之常。而無足怪者也。邦君神機穎悟。識量高遠。政務之暇。涉獵竺墳華典。留心於敎外之旨。由是宿因之所感。而未免之。豈無延陵之高乎。然而臨風觸物。靡弗慨然。矣嗚呼歲月不停。公之忌景。已過小祥。家臣堅田氏源廣慶。欲公之盛德。鐫之蒼珉。耀于後世。邦君感其忠誠。降命許可。且使余撰文。如余禪林。散材素拙翰墨。屢辭讓而不允。泚筆誌厥顚末。唯恐才短不能讚揚公之盛德。却埋沒光彩去也。

維時

享保七年歲次壬寅季秋望日

當山第四代住持嗣祖沙門寂龍巖　謹撰

十六日一季居男奉公人出替時節訓令左ノ如シ

覺

一一季居男奉公人出替時節之事

正月十六日　　半季

七月十六日

右只今迄二月八日にて候得共

御參勤御時節早く相成候付來卯之春ゟ如是被相改候事

享保七寅九月十六日

十七日寺院饗應ニ關シ閣老交付書付及老臣訓示左ノ如シ

此度諸宗本寺より諸寺院え掟書差出候依之自今法事之節は勿論常之饗應等輕く可被計候間俗家におゐて麁末之仕方と被存間敷候惣而法事を始其外寺院に懸合

候儀は本寺之掟を被承合候而可然候爲心得相達候以上

寅九月

此度諸寺院佛事其外常之饗應之儀に付從　公儀御書付被差出候付而寫拜見被仰付候御家來中末々迄右之通可相心得旨候以上

十月

浦國書
山縣殿
毛伊豆
毛筑後
完美濃

廿八日公毛利讃岐守え隼一居贈ラル

晦日新田開墾之制ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

惣て自今新田畑可有開發場所は吟味次第障り無之におゐては開發被仰付候夫に付右地所私領村附之地先にて只今迄開發可致筋にても此度新田御吟味に付いまた開發不仕有之候場所之分は山野又は芝地或は海邊之出淵內川之類新田畑に可成地所は　公儀より開發可被仰付候乍然私領一圓之內可開新田は　公儀より御構無之候爲心得此旨相通し候右之通可被相觸候以上

寅九月

十月朔日諸臣嫡子謁見ヲ爲サヾルモノ御禮代ニ關シ訓令左ノ如シ

御家來諸士中嫡子之儀未御目見不仕候而も八朔歲暮年始等御禮代差上候者も有之由に候向後　御目見不仕內は御禮代等差上候儀差控可申候事

享保七寅十月朔日

同日長壽夫人裏老完戸二郎左衛門辭職ヲ許シ內藤二郎兵衛ニ後任ヲ命ス二郎左衛門召下上下一具銀五枚下付

同日島田孫助江戸ヨリ萩ニ來ル花短冊色紙一箱祇園串一箱ヲ呈ス

六日留守居役毛利伊豆辭職ヲ留任ス

十一日萩渡リ口粕谷權六宅ヨリ發火粟屋孫右衛門小倉梅軒大和四郎左衛門類燒權

六梅軒及四郎左衛門息嘉七郎來江戸供從ナリカタキモ權六本年馳走出米之内五割
梅軒嘉七郎ハ七割五分免除セラレ江戸供從命セラル
十二日野要人ニ兒玉四郎兵衛代大番頭ヲ命ス四郎兵衛ニ召下羽織下付
十四日松平中務大輔越前ヘ入部ニツキ祝使草刈太郎左衛門ヲ越前ニ遣シ祝品例ノ
如シ
日不詳公山口湯田入湯
十一月二日日本橋ニ高札ヲ建ツ（德川十五代史）

覺　（十月ヨリ三月迄日本橋計ニ立候高札）

一火ヲ付ルモノ召捕町奉行所ニ可來事
一火ヲ付ルモノヽ在所ヲ知ラハ早速可訴出事
右之品々在之ハ御褒美トシテ銀子三拾枚可被下タトヒ同類タリト云共其科ヲ免
シ此御ホウビ可被下怪敷物ハ不慥成候共召連來ヘシ若火ヲ付ル者ヲ見ノカシ聞
ノカシニ仕追而相知候ハヽ其科重カルヘキ者也

九日中小路織部昌壽夫人（綱廣公姪宝梨水永祐女織部母ハ昌壽夫人姉ナリ）由緒ヲ以テ前年來山口ニ住居シ
扶持方十人分銀五百目下付アリ本年昌壽夫人三拾三回忌ニヨリ請願ヲ納レ織部一
代寄組格トシ二代目ヨリハ持掛ヲ高ニ結ヒ大組ニ加ヘラルヘシトナリ
十二日益田越中家臣醫員栗山玄好採用一代寺社組支配トシ皆姫松平大隅守ヘ婚姻
ニツキ供從ヲ命シ扶持方四人分銀三百目下付
同日領國内六月七月八月ノ大風雨洪水虫害ニテ田作高五萬石餘被害アリ之ヲ幕府
ニ報ス
十四日阿曾沼二郎三郎前年父代賜暇以後扶持方下付ナリシニ近年特旨ヲ以テ寄組
ニ採用セラレシモ屋敷地ナキニヨリ堀内ニテ東西三拾間半南北拾七間坪ニシテ五
百拾八坪半下付セラル
十五日加判役毛利筑後辭職ヲ許シ毛利若狹ニ後任ヲ命ス筑後ニ刀一腰（代金三枚）下付
廿八日竹田紹旦家督初テ萩ニ來ル茶筌箱炭計瓢紅葉鮒鮨各一箱獻ス紹旦去年來類
ニ請願アリ米五拾俵下付向後茶堂命セラレ銀五枚付與

十二月朔日加判役完戸美濃之辭職ヲ允許セス來年皆姫婚儀與役ヲ命ス

二日ヨリ三日ニ至ル昌壽夫人三十三回忌大照院ニ於テ法會修セラル江戸青松寺ニ於テモ法會執行ニヨリ米廿俵銀拾枚納付

日不詳御在國御留守共寄組其外無役之輩在郷請暇日限訓令左ノ如シ

此度從　公儀被仰出候通向後御在國月數多き内は寄組以上御役に而無之面々御在國中何そ無據儀於有之は御了簡を以一度充月切在郷御暇可被差免尤其子細當役中承屆可相伺候事

但御役之面々も同役有之休等之儀有之者之儀は御斷之品に依て是又可被差免候尤此段は只今迄在役にても御留守年又は休月等之節被差免來候者之格に而候事

附右在郷御暇之儀在役休息之面々共同列一同には在郷御暇不被下候事

一大組之儀御在國月數多き内は御留守年之格に一組一ヶ月詰拔に御番被仰付候故御留守年之格を以休月大添番月一組貳拾人宛至極無據儀於有之は當役中承屆月切在郷御暇可被差免候事

右之通御了簡を以先被仰付候此外之儀は只今迄之流例を以其沙汰被仰付候尤來正月ゟ如是被仰付候以上

享保七寅十二月

十一日御雇支配組之者沒收跡借銀納替訓令左ノ如シ

覺

御雇支配組之御中間以下之者沒收跡借銀有之候はゝ壹ヶ年分之御恩を被立遣割方を以納替可被仰付由候處右之通にては組之作舞難相成之由候間向後は壹ヶ年分御恩御扶持可被立遣候尤取込之御扶持方は不及沙汰候間沒收之月ゟ月數十二ヶ月分之御扶持方并壹ヶ年分之御恩を以納替之可有沙汰候事

享保七寅十二月十一日

十七日堀内家宅萱葺ニ關シ訓令左ノ如シ

御堀内に有之屋宅萱葺之儀有來之外御停止候處草楾材木不如意に付屋宅之修補

成苦敷候間本町筋之表向之外萱葺御免被成候樣にと先達て月番添番ゟ内々之願に付て申談及沙汰候萱葺御停止之儀は古來ゟ之儀と申他之見分尤火之用心も如何に付願之通には不被仰付候然共願之筋も無余儀事に付御了簡を以左之通被差免候

一本町筋脇筋ともに外輪之儀は不及申屋敷中之家にてもきつと外え相見候程之家は萱葺不被差免此中之通に候勝手向物陰に有之家何れ之小路えも差て不相見所之儀は勝手次第少々之萱葺不苦候少にても目立候儀は不被差免候事

以上

享保七寅十二月

右堀内萱茨之事九月廿八日組頭月番兒玉四郎兵衛添番口羽六兵衛兩人　御城にて浦圖書殿え懸御目内々にて被相願候同日右兩組之證人中村七郎左衛門桂四郎兵衛遠近方兩人え相對候て右之趣咄仕置候樣にと頭衆被申之由にて咄置候願之筋は本町筋表向は只今之通不相替勝手向其外脇筋之儀は表向勝手向共に御免被成下候樣との儀候依之前方被差留候御書付等有之候哉と段々僉議被仰付候へ共控等も無之御目付所え承合候へは寛文三年と相見卯ノ年と有之御書付に少々相見年久敷儀共に候右之趣委細御寄相之節被聞召少々は可被差免との御事にて御伺に相成候上右之通相極候寅十二月十七日八組當月月番添番證人柳井平兵衛中村七郎左衛門御城え呼出遠近方兩人申聞せ候上御書付相渡候事

一八組之外えも支配方へ右御書付之寫に奥書相調内意申達候事

一御目付所えも右之御書付之寫相調同日に御陸目付呼寄相渡候

右奥書左に

右八組頭衆ゟ願付て及御沙汰如是被仰付候尤其外えも支配方ゟ内意相達候樣被仰付候事

寅十二月十七日

十八日毛利但馬守前髪ヲ執ル使ヲ以テ太刀馬代肴二種樽代金三百匹進セラル

日不詳公江戸往來之時御用達町人ヨリ獻品幷諸役員ヘ贈遺品減少ニ關シ訓示左ノ

如シ

覺

一御往來之節尤平生自他國共江戸京大坂御用聞町人ゟ御家來之内え音物之儀衣類差送候儀被差留候然上は重き器物等送候儀は無用に候總て音物之儀先は差控縱送候共隨分輕可仕候事

附町人之所え振廻に參候儀停止之事

但若右衣類歟又は重き品送候共受納不仕差返候事

一京大坂御留守居檢使等以下定居之者幷江戸矢倉方之儀は別て自是勤をも仕尤御仕出しにて重き品をも御送せ被成候へは衣類とても相斷候樣には不相成儀候間是は振廻衣類等之儀も御構無之候事

但右之通にても重き品は贈答不仕候樣象て可申談事

一平世御用に付京大坂等え被差越候者之儀は一切音物受納不被仰付振廻等停止之事

附御借銀事なとにて被差越候者之儀は自是も品により重き品御送せ被成候儀も有之談合旁振廻等も有之候へは其段は其時々校了に可被仰付候事

右之通被仰付候

出頭
番頭
御小納戸
大御納戸
公儀人
御裏年寄以下
役人
京大坂長崎
御留守居
江戸方地方

手子中
同斷下役人中
地方江戸共臨時之御用或御婚禮方
等之類にても向後ともに御留守番
手元御用方等
一御茶堂衆御數寄屋方等之儀は茶師
等之儀如此相心得候樣にと申聞せ
候事

廿四日煤拂ノ式アリ公佳例ノ如ク山内縫殿ノ宅ニ臨マル

廿七日諸借銀利相ニ關シ訓令左ノ如シ

諸借銀之利相銀替り已後も近年之通壹割三歩にて候得共利相被直下候樣にと市
中ゟ斷申出候其節かしかりも別て不如意に付て以前ことく今日ゟ壹割五歩に被
相改候事

享保七寅十二月廿七日

廿八日大頭役益田越中之僻職ヲ許サス

月日不詳吉元公記

服忌令聞合之儀向後は支配方へ承合候樣にとの事

享保八癸卯正月朔日公萩城ニアリ

六日岡部半右衛門長屋ヨリ發火奈古屋九郎右衛門國司平兵衛中村新兵衛宅類燒

同日松平中務大輔ヨリ使者大田三彌ヲ萩ニ遣シ太刀金馬代箱肴二種樽代金五百匹
ヲ贈ル昨年十月中務大輔入部之祝使ニ答フル也

廿日志道丹宮完道玄蕃（正德三年二月十一日兩人ノ禁錮ヲ解キ並隱居トナス命アリ減祿禁錮セラル）
儉政解除ノ時家祿之内少シク返付スベシトナリ

廿一日藏田忠左衛門齡七拾ニ達シ去年迄勤務ニツキ隱居以後小袖一下付

同日龍昌院前住雲同請願之許可ヲ得ザル爲メ同寺ヲ退去セシハ不法ニツキ專稱寺

ニ於テ蟄居ヲ命シ他國出行一寺ノ住職ヲ禁ス

廿八日益田右衛門病中假養子出願間ナク死去ニツキ未期ノ法ヲ以テ家祿高千石之内貳百石減少殘高八百石養子豐三郎ニ命ス減少石高貳百石ハ本家益田越中ヘ還付本知ヘ引加フベシトナリ

同日當職浦圖書ニ黑印令條ヲ授ク例文ヲ以テ略ス

晦日益田織部死去ニツキ嫡子圖書ニ香銀二枚下付（前々ハ一門ハ銀五枚老中ハ銀三枚ノ例ナルモ去年幕府節儉令發布以後諸事節減ニツキ向後三枚ハ二枚トナル）

日不詳貨幣之制（古金銀引替）發令アリ（德川實紀）

日不詳去年幕府節減令發布ニ由リ萬事輕減セラレ洞春寺祈禱之千部向後三百部トナシ滿散囃子執行ナリシモ小謠トセラル

二月朔日吾藩長崎用聞町人井筒屋茂兵衛萩ニ來ル文鳥壹籠ヲ献ス金五百匹下付

四日公萩發駕東覲（三月上旬發途ナルモ當番手ヨリ中年分御參勤ノ答ニ付九月交代ニナル）加判完戸美濃當役山内縫殿手回頭志道太郎左衛門大組頭梨羽頼母

五日吉川左京經永三田尻ニ來リ（萩向疱瘡アリ遠慮ニテ三田尻迄乘船）旅館ニ於テ公ニ謁ス

八日葵紋濫用ヲ禁ス令文左ノ如シ（閑老交付）

山名左内と申浪人葵御紋縫に仕衣類に附其外巧成仕方共にて僞取込候品々有之に付舊臘死罪罷成候就夫葵御紋付衣類之事只今迄心得違候哉末々之男女等致着用候者も有之左樣には有之間敷儀に候間向後拜領仕候者之妻子は格別其外は一切着用仕間敷候且又御用之外葵御紋染又は縫紋織物蒔繪諸道具等に至るまて附候事自今堅可爲無用由町中えも相觸候條此旨も可被存候

但御三家並御紋御免之大名より誂候は格別に候以上

卯二月

十二日宇治採茶之制發令アリ（德川實紀）

これよりさき茶壺を宇治に往來するは徒頭の護送することなりしをやめられ二條城の戍役に赴く大番隊より番士貳人附添まいり歸路は大阪城よりかへる番士うけたまはることにあらためらる

十三日府内ノ番人ヲ改メ請負二十人ニ改ム書付左ノ如シ

江戸中請負辻番所番人疑敷もの又は不相應成もの差置猥成所も數多有之由相聞え候に付可相改所此度請負辻番所貳拾人にて總請負相願唯今迄之請負金高を以給金相渡慥成者差置其上　公儀え人足代金等差上可申旨願出候に付段々遂吟味人足代金等は差免番人給分増金に致させ彌慥成者可差置旨證文取之貳拾人之者え江戸中辻番總請負此度申付候間面々組合辻番所之儀右貳拾人の者え御申付可有之候依之證文之寫相廻申候

右之通候間自今組合年番月番ゟ相改猥に無之樣可有御申付候以上

二月　　大岡越前守

書面之通大久保長門守殿被仰渡候　　稲生二郎左衛門

十六日江戸大火我芝街別邸燒

廿八日國司壹岐廣通浦圖書元敏正德四年九月ヨリ享保元申八月ニ至ル當職在勤中計算上勘完了ニ由リ是日當役山内縫殿提出公覽ニ供ス概略左ニ記ス

總一紙は正德四年九月ゟ享保元申八月迄防長兩國諸御藏入御所務米銀之請高書立之右手數御遣方銘々備之御算用相調候上勘都合役羽立彌三右衛門張半右衛門判形印形を居其奥書御勘定奉行井上善兵衛名判印形を調差出候右一紙は長文に付役中之惣請拂高左之通被成御覽能樣別紙相調尤本書共兩通及披露候事

覺

一惣高九拾萬五千貳百六石六升

此内千九百三拾石四斗三升八合　　新開

右之物成

米三拾壹萬五千三百四石六斗壹升八合

銀五萬千九百六拾八貫五百七拾七匁八分

内拂

米拾九萬五千貳百八拾三石壹斗七合
銀貳万六百六拾七貫八百八匁貳分

殘

米拾貳萬貳拾壹石五斗壹升壹合
銀三萬千三百貫七百六拾九匁六分

右御貸付米銀共に浦圖書桂三郎左衛門え引渡之

右防長兩國御藏入御所務方正德四九月ゟ享保元八月迄之間國司壹岐浦圖書役中御遣方共銘々證文に引合一紙如斯御座候以上

右之通に付同日浦圖書國司衛士壹岐嬭子於記錄所山內縫殿相對壹岐圖書兩職中御算用一紙及披露候段及挨拶候事

壹岐ハ病死ナリ衛士ハ山內縫殿ヨリ召喚ス

三月四日佐々木九郎右衛門佐々木三四郎幼年中代役相勤三四郎役歳ニ達スルモ讓返ノ申告遷延セシニ因リ逼塞ヲ命ス

五日貨幣之制ニ關シ閣老交付書左ノ如シ

覺

慶長金幷新金共に小判之內三分迄之切レ有之金目三匣迄輕き分壹分判も疵有之金目少々輕く候共無滯通用可致旨去る丑年相觸候所に通用滯候由相聞え候依之自今切レ疵大小に無構致通用金目之儀は只今迄之通三匣以上輕き分は直し金に仕へし諸々在々御料私領共に右之段相心得諸商賣物代金爲替金等無滯取引仕へし若滯所々有之候はゝ可訴出急度越度に可申付候以上

卯三月

十一日公登營ノトキ供從ノ輩行規作法ニ關シ訓示左ノ如シ

一殿樣御退出之節猛勢をせり分罷出候儀無用に候御供少々遲々仕候ても不苦候間込相不申所を罷出御供可仕事

一挾箱え腰懸候儀堅無用之事

一たばこ給候儀無用之事

一頭え何にてもかふり候儀無用之事
右之外何にても何分前々ゟ御法度之趣旁無相違樣御供之面々能々致得心末々又者至迄宜被申付候若違背候者有之候はゝ一廉御咎可被仰付候又者之儀は其身は不及謂主人も迷惑可被仰付候勿論惣て御ありき之節行規作法等相慎候段は改て被仰出迄も無之候事

三月

十三日夜完戸美濃椿ノ下屋敷ヨリ發火福昌寺燒亡

十六日幕府へ納付米ニ關シ呈出書付左ノ如シ

松平民部大輔當春差上米金子ヲ以テ上納仕度奉存候依之申上候以上

三月十六日　御名　御留守居　井原藤兵衛

毛利讃岐守毛利但馬守より差上米民部大輔高之内にて内證分け之儀に御座候付去秋上納仕候通當春も民部大輔方より差上候依之申上候以上

三日十六日　御名　御留守居

上納金銀員數覺

米千八百四拾七石

合金千六百三拾五兩三分銀九匁九分

右差上米壹萬石付百石宛當春御張紙直段三拾五石に付三拾壹兩積を以高三拾六萬九千四百石此内末家へ配地之分共當春半分上納員數右之通御座候

十七日東叡山火防番命セラル

廿三日大工頭藤井喜兵衛惡銀ヲ使用シ平素行狀不良ニ因リ遠島ニ處ス連累前田傳兵衛柳井半右衛門松尾一庵處罰アリ

廿六日毛利主水師就寧子吉元公女へ納采

晦日諸國戸口調査ニ關シ訓令左ノ如シ德川實紀

けふ令せられしは去し丑の年のごとく諸國の戸口たゞさるにより農商社人僧尼

等までくはしく記して呈すべし田畝の町歩はしるすに及ばず九月より十一月までに呈すべし某の月査撿して幾歳といふ事しるすべし武家につかふるもの幷に輿儀の類しるすに及ばすとなり今より後は更に令せらるまじきにより子午にあたれる年は必呈すべしとなり

日不詳此月本所吉田町ノ者火附ヲ捕出セシニツキ其者ニ銀三拾枚ヲ賜ヒ町中ハ一年ノ公役ユルサル

四月朔日毛利讃岐守匡廣江戸發五月廿二日歸邑

二日萬石以上ノ獻スル時服ハ必呉服師ニ命シテ之ヲ織染セシム他ノ者ニ命スルヲ得ス德川十五代史

十六日三戸長右衛門ニ皆姫裏老役ヲ命ス

廿一日松平左近將監閣老ニ任ス

同日皆姫松平大隅守芝新馬場邸ニ入輿之役完戸美濃貝桶役山内縫殿裏老三戸長右衛門取次周田七右衛門醫師粟山玄安也廿三日大隅守夫婦我邸ニ來ル料理ヲ羞ム廿五日公夫婦大隅守邸ニ至リ饗應ヲ受ラル五月九日國元ヨリ祝使トシテ平佐右衛門ヲ出府セシム芝御前樣ト唱フ

舊記曰婚嫁入費四寶銀三千貫目

廿三日宇治茶壺ノ往來ニ徒頭ノ付添ヲ止メ大坂二條在番ノ番士ヲシテ之ヲ護送セシム因テ其道中送迎ノ勞ヲ省ク德川十五代史

廿六日毛利但馬守廣房江戸發五月廿二日歸邑

五月三日福原又兵衛江戸邸内ニ於テ發狂志賀茂右衛門ヲ刺通シ自殺セシニ由リ家祿沒收

廿一日毛利但馬守廣房德山ヘ入部井原孫右衛門毛利八郎左衛門德山ヨリ返サル

廿六日吉川左京出府六月廿三日着府

六月十二日我麻布邸長ノ方ヘ新辻番所設置セラル

廿一日打明次郎左衛門井上右七亡父又左衛門大坂銀方在勤中不足銀アリ給米沒收ス

七月朔日大中小竹病身ニヨリ隱居養子ノ請願ヲ爲スモ不法ノ願意ニツキ家祿減少隱居ヲ命シ家續人ハ別ニ出願セシム親族長留左兵衛大中七郎右衛門養子ノ請願ニ關シ不屆アリ逼塞ヲ命ス

八月二日進藤勘兵衛ニ右筆ヲ命ス

十五日火見ノ高サヲ定ム德川實紀令文畧ス

廿七日村上吉右衛門三田尻開作鹽濱立銀ニ關シ緩慢ノ行爲アリ職務ヲ免シ逼塞ヲ命ス

廿八日土地質入之制ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

覺

一去々丑冬中相觸質地之類流地に不成裁判有之候處右之通にても質地請返し候事も成兼却て迷惑いたし候者有之金銀之貸し借りも手支候由相聞候に付當卯九月より丑年以前之通取捌有之筈に候事

一金銀不致返辨質地をも不相渡及出入候時は可訴出儀勿論に候得共年久敷儀は取上無之候間享保元申年以前之出入は訴出間敷事

一丑年以來當卯八月中迄奉行所又は私領にても質地年賦に請戻し候裁判申付證文致置候分は彌其通可相心得候然共此上相對を以質流しにいたし候とも勝手次第之事

右此旨を可相守者也

享保八卯年八月

同日深川八右衛門新田小名木川ニ於テ抱屋敷地四千六百九拾坪不用ニヨリ幕府ノ許可ヲ得テ家守大郎兵衛エ附與ス

日不詳吉川左京經永江戸ニ於テ中條大和守信治女ヲ娶ランコトヲ約ス

九月九日内藤五郎右衛門ニ有馬左衛門佐夫人（綱廣公女幸子）裏老ヲ命ス

十五日萩城三廓城濠浚渫ニ關シ伺書ヲ提出セラレ許可アリ伺書左ノ如シ

長門國萩之城三之曲輪之堀城下爲諸用常々小船通路之堀筋御座候然所常に諸所之下水流入其上毎に洪水も繁く度々埋候付先年繪圖を以相伺候處浚可申由被仰

出一往浚させ候所右之趣にて年々埋其後も早速ゟ小船之通路相支於只今は愈差
閊別て末々之者は猶又迷惑仕候右之通小船通路之堀筋御座候間小船之通路は不
差支程に埋候所は度々浚させ申度奉存候依之委細別紙以繪圖奉伺候以上

九月八日　　松平民部大輔

繪圖之內御書付如左

右三之曲輪之堀諸所之下水流入其上每々之洪水に埋り候付其度々浚不申候て
は小船之通路不相成城下之諸用難相達候間朱引之所小船之往來は不支候樣不絕
浚させ申度奉存候依之奉伺候以上

享保八癸卯年九月八日　　松平民部大輔御判

同日江戸三邸御門商賣人定札ニ關シ訓示左ノ如シ

三御屋敷御門

右商賣人定札持御屋敷え入候儀向後は入候御門ゟ歸候樣に被仰付候付銘々紙に
ても木札にても名を書付持參御門え預置歸候節請取御門を出候樣被仰付候事

一定札壹枚に二人三人と有之札持參之者御屋敷內に居候內は右札之內之人數は
札なしにも御門を入可申候札持候者歸候已後相斷候共御門を入申間敷候事

右之通向後被仰付候以上

同日吉川左京江戸ヲ發シ十月十五日岩國着

十八日幕府へ納付米ニ關シ呈出書付ハ三月十六日ニ同キヲ以略之上納金銀員數覺

米千八百四拾七石

合千三百七拾貳兩銀三匁四分

右差上米壹萬石ニ付百石宛當秋御張紙直段三拾五石ニ付二拾六兩積ヲ以高三拾
六萬九千四百石此內末家へ配地之分共當秋半分上納員數右之通御座候

同日佐竹三郎右衞門ニ麻布邸在勤ヲ命ス

廿八日粟屋帶刀ニ江戸留守居ヲ命ス

十月朔日公江戸發駕東海道伊勢路ヲ經テ歸國ノ途ニ即ク

十日公第八子綾子萩ニ生ル母森氏

十一日ヨリ十三日ニ至ル青雲公十七回忌大照院ニ於テ法會修セラル此時日リ千部止三百部ニ成

十四日後房銀子方井上九左衛門天野庄右衛門山田源右衛門粟屋六左衛門在勤中不足金アリ審理ノ結果九左衛門逼塞ヲ命シ家祿ヲ減少源右衛門六左衛門檢使井上神兵衛逼塞ヲ命ス

十一月二日出火ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

中屋敷下屋敷抱屋敷より出火候は自今は居屋敷同前に差控候儀伺候樣向々え可被相通置候

卯十一月

三日諸大名供鎗刀番跡乘等ニ關シ大目付交付書付左ノ如シ

登　城又は上野增上寺參詣之節下乘より内え召連候供之者員數幷刀持等先達て不差遣供に召連候者之内にて刀爲持候樣に先年被仰出候處猥りに相見候間彌其心得可然候

一於途中主人一禮有之節牽馬より末之供相殘り時宜不致候樣に先年相定り候處近來牽馬より末供之者殘り時宜仕候も有之候此儀無用に被申付可然候

卯十一月

同日赤間關失火民家百三十九高札場燒亡

四日公歸城

歸城禮使淸水宮内ニ命シ召下小袖下付

十二日國内五月以來大風雨洪水高潮虫枯等ニテ被害景況左ノ如シ

一高六萬余

一土手石垣井手川除等壹萬六百八拾間程

同日公步行初春日社ニ詣ス直ニ當役山内縫殿宅ニ臨ム

十五日寄組以上嫡子在郷行ニ關シ訓示左ノ如シ

寄組以上之嫡子前々御在國之内無據儀にて在郷被罷越候儀付て享保六年對記錄所書付差出候式日に不支樣に罷越候面々は記錄所え相達候迄にて相濟候へ共式日に支候日次之屆於有之は其譯記錄所ゟ當役え相達候上勝手次第に罷越候樣に

記錄所ゟ成共挨拶可被仕候事

右之通前々ゟ之沙汰筋候間此趣寄組衆其外へも内證をも申候て向後其通可有沙汰候事

十六日當役山内縫殿辭職ヲ許シ桂能登ニ後任ヲ命ス縫殿へ刀一腰（中島米代金拾枚）下付

廿日夜萩八丁縄手之角完戸平馬宅發火乾ノ風強ク大火ニ逮ヒ河添本丁中ノ丁延燒

廿一日朝ニ至ル戸數百六十四竈數二百五十二人畜死傷ナシ

十一月廿二日將軍吉川左京ヱ初テ重陽之内書ヲ賜フ

廿五日當職浦圖書辭職留任井原孫左衛門ヲ若老中ニ任シ當職副役ヲ命ス（孫左衛門市正ト改ム）

同日島田茂右衛門嫡子與一右衛門逃走ニツキ茂右衛門ニ逼塞ヲ命ス

廿九日青陽夫人五十回忌龍昌院ニ於テ法會修セラル銀七枚米拾俵納付（綱廣公女松平播津守義行室）

十二月六日夜澁谷長兵衛長屋門的場燒失

七日孝子（毛利飛彈守元次女德山ヲ發シ九日萩着船倉ニ住シ十二日毛利伯耆元連ニ嫁ス元連波口）屋敷ニ入ル

十五日萩城諸番所口取締ニ關シ訓示左ノ如シ

一御城諸番所口々しまり候所有之儀候ふしまりの節は何れに不限申談しまり可被仕儀に候殊更殿樣御通之節　御目通なとの儀は前々ゟ銘々引受しまり被仕儀候間愈可有其心得候事

一御番衆等常に不被差置御通之節に限相詰候所有之儀候左樣之所　御目通しまり仕候儀は右被相詰候衆被罷出候節未を參候ものしまり可被仕儀は勿論之事候若又外より誰にても往來仕候節ふしまりの儀有之候はゝ跡しめ置候樣に其所相詰候衆尤其口向寄之衆より氣を付何分御通之節しまり候樣に可被仕候尤往來被仕候衆之儀も猶又可有其心得候事

右之趣改て相達迄も無之古來差當事候得共面々爲心得如此候條　御城諸番所被相詰候衆此旨可被相心得候以上

享保八卯年

同日大頭役益田越中辭職留任津田五左衛門用所役ヲ免シ林三右衛門ニ後任ヲ命ス

大檢使生田權右衛門ヲ免シ江戸御留守矢倉頭人ヲ命ス筆者木原小右衛門ニ大檢使ヲ勤方飯田源右衛門ニ大檢使ヲ命ス

同日山內縫殿繁多ノ時期當役勵精勤勞セシニ家計困難ノ事情アルヲ以テ銀五拾貫目本年末ヨリ負債納替ヲ命セラル

廿日公組付中家計向ニ關シ物頭ノ大頭益田越中手回頭國司隼人志道太郎左衛門八組頭中寺祉奉行山口吉兵衛和智次郎兵衛ヲ對面ノ間ヘ召シ面命左ノ如シ

其方共與支配中勝手向之儀に付近年以各心遣仕候處至當暮別て困窮之由聞屆候勝手向至極差閊米穀下直世上一統差詰畢竟上下之風俗不相立彼是尋常之儀にても不相濟事候條何分來年各別之吟味を以組中取續之儀をも申付にて可有之雖然當暮之儀差當餘慶無之當分之思慮に不逮事候條隨分其方共心得を以支配之もの共え能々申聞せ心遣可仕候右之通被成　御意候事

廿五日坂九郎左衛門ニ手元役ヲ命ス

廿九日小川貞右衛門表番頭役ヲ免シ井上與三右衛門ニ表番頭ヲ命ス

月日不詳吉元公記

諸國共銀子不如意米下直相成候六七月比百目に付貳石七八斗右に付諸物下直に不相成に付四民共困窮仕候事

毛利十一代史卷之五十四

大田報助編次

泰桓公記十四

享保九年甲辰正月朔日公萩城ニ在リ

十一日當職浦圖書辭職ヲ許シ毛利筑後ニ後任ヲ命ス井原市正ニ筑後副役ヲ命ス畢テ一門并老中ヲ召シ黒印令條ヲ授ク

我等不肖之身を以て兩國之政道を統候事は尋常之心得一己之及所に非す一族各ひとしく我等一ヶ之形を以て家中ゟ下民に至迄風俗之善惡人心之邪正共に可相立事候然は各身持行規等益堅固にして其正直之定規を以て家中末々に至迄相およほし尤我等遠失之所をも可相糺儀候況當時國中之風俗次第相衰上下至極之困窮於于今は萬事危急之時節に相臨候然者古今才德の主といへとも廣く諫を納衆智を撰ひて是を用の外無之增て於我等は不始于今事なから彌右心得を以て自今

當役之面々は勿論休息之各たり共隨分此所に志を勵し所存を殘す當役之者とも申合諫言有へく候尤各之內心得違之儀於有之は急度可加異見候條謹而可得其意候且又各存寄之儀申談候節大概一列に決斷相成儀も可有之候へ共事により親子兄弟にても面々之存念相わかるゝ事これあるものに候或一人二人其心に不同各別之存寄有之といへとも其他多分之詞に壓れ其かたに付置候時は不本意儀候條於節義は一人たり共存念之趣可申合事候尤心ならす私意相交る時は正邪を取違又は政道之大要をわすれ候樣にもこれある事候今更申聞に及さる儀といへとも國中政道之儀家法によつて惣て善惡邪正の筋を糺し我等決斷之所を以て何分申付事候此旨可相心得者也

享保九正月十一日　御黑印

完戸美濃殿
毛利筑後殿
毛利大藏殿
毛利伊豆殿
毛利宇左衛門殿
毛利伊勢殿
益田越中殿
福原對馬殿
粟屋帶刀とのへ
堅田安房とのへ
浦圖書とのへ
桂能登とのへ
山內縫殿とのへ
乃美仁左衛門とのへ
井原市正とのへ

老中退去一門へ諭告アリ完戸美濃毛利大藏ヲ呵責シ目通遠慮ヲ命シ美濃ノ辭職

ヲ許ス大藏家計逼迫ニツキ暇ヲ乞ヒ四五年采地ニ住ス

同日累年財政ノ危機ニ於ケル救濟ヲ講スル途ナシ因テ衆庶ノ言路ヲ開キ意見ヲ啓陳セシメントテ國内ノ士民ニ告諭シ各所管ヘ建白又ハ目安箱ヲ掲ケ投書セシム

十六日三戸彦右衛門ニ所帶方ヲ命ス

廿日口羽衛士裏判役ヲ免シ召下羽織下付井上宇兵衛ニ平川長左衛門代寶藏幷武具方ヲ平川長左衛門ニ井上宇兵衛代吉田代官ヲ周布彦右衛門ニ小川貞右衛門代表番頭ヲ命ス

同日出火ノ時風下防衛ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

出火之節風下之屋敷方幷寺社町等迄火事場見廻り之面々打廻り防之儀差引致し人數不足之所は其向寄之屋敷え相達人をも出させ候筈に候間可被得其意候

右之趣向々え可被相連候

正月

一右之通に付當分之御手當て騎馬壹人消方足輕御中間之者十五人總高提灯梯子大籠其外共に惣人數三十人程充兩御屋敷にて六十人當分用意相成候由に候事

廿二日組中歎願ニ關シ訓令左ノ如シ

組中不勝手歎之儀に付去冬以來相組中申合寄合等さゝ敷有之候由相聞候大小身共勝手向之儀は面々不同有之事候へは曾て申合等可仕儀にて無之候處　公儀を不憚御譜代御家人之失本意候仕方甚以不心得之儀候向後此等之儀付て寄合相催廻狀等仕候段相聞候はゝ急度嚴重之可被及御沙汰候若此上發端之者有之候はゝ最初請次候者ゟ其段可申出候申出候儀を差控追て於洩聞は請次候者も發端之者同然之御沙汰に可被及候

右之通候條此段組支配中能々可被申聞候已上

辰正月

同日萩堀内柳澤靱負宅發火西風猛烈大火トナリ延燒堀内外廿六軒ニ及フ江戸當役桂能登江戸留守居粟屋帶刀宅類燒ニ由リ能登ヘ金貳百兩帶刀ヘ越後縮貳反下付

舊記曰舊冬以來諸所付火節々有之に付晝夜御政道被仰付候得共火さし道具有之

に付二月中旬頃より一町切に辻番相調假小屋にて番候者兩人宛差出候事

御城火用心ノ御張紙始ル　端ノ防火ノ見始ル

同日毛利讃岐守へ隼一居進セラル

廿八日梨羽頼母大番頭ヲ免シ益田圖書ニ後任ヲ命ス

晦日狩野榮川（如川嫡子）宅燒亡ニ因リ櫻田邸内一舍ヲ貸ス

二月朔日城代役兒玉三郎右衛門七年勤續ニ由リ召下上下一具下付

六日御書部屋仁保左源太御判紙粗漏ニ取扱ヒ燒失ニツキ逼塞ヲ命ス

七日毛利但馬守廣房德山ヲ發シ三月四日着府

九日淨光院（綱吉夫人）十七回忌東叡山ニ於テ法會アリ公ヨリ香銀三枚養心夫人ヨリ壹枚納付

十六日大西十郎右衛門齡七十五隱居ノ請願ヲ許シ召下羽織下付數十年勤續ニ由テナリ

十九日御國留守居毛利伊豆廣包ニ江戸加判役ヲ命ス

三月五日梨木正三位右京權大夫永祐（綱廣公繼室）死去ニツキ香銀三枚贈ラル

九日百合助君通行ニ關シ訓示左ノ如シ

百合助樣御步行之節諸士中足輕以下其外末々之者參懸り候ともよけ申に不及謹て辭儀仕居不苦との御事

以上

享保九辰三月九日

十一日八谷五兵衛ニ手元役ヲ命シ長沼九郎右衛門ノ同役ト爲ス

十五日財滿五郎左衛門半井古仙許可ヲ得ス石州銀負債シタルハ違法ニ因リ家祿沒收證文保證人粟屋半左衛門飯田平兵衛飯田道億ニ逼塞ヲ命ス五郎左衛門古仙嫡子へ捨扶持拾人給與

十八日毛利但馬守廣芳初テ常盤橋門番命セラル

廿一日大阪大火廿三日ニ至テ鎭火城代酒井讃岐守中屋敷燒亡ニツキ毛氈廿枚贈ラル吾藩用達上田久左衛門同三郎左衛門鴻池善八同右衛門類燒ニ因リ正木三百挺宛

遣ラル

廿五日江戸加判完戸美濃辭職ニツキ江戸加判ヲ御國留守居ヨリ兼務交番ト爲ス毛利伊豆廣包毛利宇右衛門廣規毛利伊勢元雅三人ナリ伊豆ニ來江戸陪從ヲ命ス

廿八日堅田安房廣慶所有毛利家祖先ニ對シ將軍家其外判物拾四通粟屋縫殿家ニ藏スル武田家臣國高ヨリ毛利氏ヘ呈スル書札其外三通提出セシニ因リ什書ニ加ヘラル

四月朔日乃美藏人與詮百合助君傅役ヲ命シ出頭供頭兼務セシム

二日閣老内諭アリ狩野榮川ニ命シ我藩所藏ノ古畫ヲ臨寫シ將軍ニ奉ラシム内ニ雪舟筶ヲ明地ニ在リ所寫ノ山水大幅アリ四明ノ徐璉詩一首ヲ附書セリ將軍之ヲ愛セラレ榮川ヲシテ臨寫且其事故ヲ附記セシムト云

四日萩城東南御門人切手向後暮六時ヨリ明六日迄夜中切手ヲ以テ出入セシム

十二日三隅勘右衛門長崎役ヲ免シ松浦喜右衛門ニ後任ヲ命ス

十八日吉川左京ヘ應一居贈ラル正理院有馬入湯ニツキ無聊ヲ慰スルナリ

廿四日ヨリ四日間天樹公百回忌天樹院ニ於テ三百部修セラル毎年千部修セラレシモ去々年節減令發布ニツキ改正セラル

廿六日ヨリ廿七日ニ至ル春日靈社ニ於テ祭事執行ニ由リ米五俵銀五枚納付高野ヘ福原二郎右衛門ヲ遣シ代拜セシム安養院ヘ香奠銀拾枚納付セラル

閏四月廿三日用水掛井路爭論ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

覺

一在々用水掛引井路之儀川中に井堰を立水を引わけ候處に堰之仕方により川下の井水令不足にも不搆手前勝手之宜樣にのみ仕候故逮爭論或兩頰之井口有之場所片頰の井口付替候時双方不出合一方の自由に任せ仕替候故令出訴候類有之候自今右體之儀双方致相對普請仕候節立會無障樣に可致候若滯儀有之歟又は不法の事仕候時は其節ゟ十二ケ月を限お訴の者可有裁斷右期月過令出訴候は丶不取上候事

一郡境村境山野の論又は質田地等之儀其外奉行所え訴出候事に付證據無之非分

の儀をも何角と申紛し又證據有之儀も年經候へは其事を申掠逮出訴相手村方の難儀に及せ其上双方村々困窮の元に成不屆に候條向後如斯之筋不可訴出若此類之事訴出僉議の上巧の譯相知候におゐては其咎め可申付候事以上

辰閏四月

廿八日草川太郎左衛門ニ記錄所役ヲ命ス井上半右衛門町奉行ヲ免シ粟屋半左衛門ニ後任ヲ命ス

五月朔日兒玉市之介ニ麻布邸在勤ヲ命ス

十二日僉政中諸臣出米ニ關シ訓令左ノ如シ

元來御勝手御不如意之上多年無據臨時の御入用等有之度々御家來中出米被仰付候處謹而遂御馳走御祝着被思召候然は御家來中も數年不勝手猶又去暮に至り至極困窮の者共有之趣被聞召別して御苦勞被思召候茲によつて當春以來廣く存寄等被相求段々僉議被仰付之且御内外の儀深御儉約被仰付之彼是の御吟味を以漸御家來中出米今年ゟ被返遣候尤旅役の料は此度御仕法被相改別紙之通被仰付候惣て勝手取續之儀は上下風俗の善惡尤大小身共一分〳〵之覺悟によるべき段勿論之事候間彌面々分限を顧み儉約質素を本とし勝手取續永遂御奉公候樣にと被思召候委細之儀は年寄中ゟ可申渡候此段可申聞旨候

舊記五月十二日御仕組被仰出高百石に付公借壹石五斗引米諸借壹石五斗引米以上三石引旅役五石四斗押にして銀にて百八拾目當り内借四石引に相斷候樣にとの事

六月九日ヨリ十日ニ至ル廣元公五百回忌洞春寺ニ於テ法會修セラル

十日兒玉權右衛門能勢治右衛門銀子方内勘文ニ撿使ノ捺印ヲ要セス上勘ノ完了ニ至ラサルハ緩怠ニツキ逼塞ヲ命ス

廿三日諸大名衣服調度饗膳禮物等華美ヲ禁ス令文左ノ如シ閣老交付

覺

一音信贈答嫁娶之規式饗應等萬事儉約を可用旨前々より毎度被　仰出候彌以右之趣急度被相守猶又此度被　仰出候條々左之通相心得可被申事

一婦人之衣服近年結構に相見え候向後大名之妻女たりといふ共輕き縫金絲等を用ひ猥に結構成衣類拵被申間敷候殊に召仕の女に至ては猶以上下の差別有之候樣に堅可被申付候此度定直段町中え相觸候間其趣を可被存事

一新規塗物之事國特大名之調度たり共輕き梨子地蒔繪に過へからす妻女の乘物挾箱長持等之類は黑塗蒔繪の紋より上の結構いたすへからす其餘の輩は黑塗輕き蒔繪或はいつ懸等を用ひ乘物は黑塗のし金物又は天鵞絨包挾箱長持之類は黑塗或は溜塗を用へし蒔繪の紋無用之事

但湯殿道具類は木地溜塗の外一切いたすへからさる事

一夜着蒲團或は貝桶挾箱の覆唐織金入の類不可用之長持屏風箱等之覆は絹布又は革を可被用事

一婚姻の行列供乘物拾挺に過へからさる事

一祝儀の饗應彌近例に隨ひ其內菜數等省略有へし常の參會は大身たりといふ共二汁六菜に過へからず但香の物共に右之數たるへし惣て吸物肴は料理の菜數に准し減少すべき事

一婚姻祝儀物之取かはし近年禮物被仰出候趣に准し可有斟酌事

右之品々萬石以上其分限相應を計ひ可被用之候以上

辰六月

演說之寫

祝儀饗應の節たりといふ共附後段出し候儀無用に可被致候料理一通り相濟候上尙又滯座の節は後段出候儀は勿論に候後段出し候以後差つゝき急度引替の料理出し候儀も有之樣に相聞候左樣の事可爲無用候畢竟馳走の品計に後段も出し又料理等出し候樣成無用の結構を不致儀に候

萬石以下へ訓令寫アリ略

商人華美ノ衣服製造禁止令寫

婦人の衣服縫金絲等入候ても小袖表一つに付代銀三百目染模樣の小袖表は一つに付代銀百五拾目を限り夫より高直の物一切拵出し申間敷候尤帷子も右に准し

可申候若違犯の輩在之は急度可爲曲事旨町中え可被相觸候以上

辰六月

前令ニ對シ老臣添書

今度於江戸萬事儉約の儀御書付別紙之通被差出候付寫拜見被仰付候然は御家來中におゐては猶又右御書付の趣を受諸事可有其心得旨候間可被得其意候尤組支配々々えも堅可被申聞候以上

七月

桂　能登
井　市正
毛　宇右衛門
毛　伊豆
毛　筑後

廿七日諸所祭禮見物所等ニテ内證ノ押羽織ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

諸所祭禮見物所等にて内證の押張番なと仕候もの羽織其外下横目にまきれ候儀無之樣御内意相達置候樣にとの御事以上

享保九辰六月廿七日

七月朔日幸橋夫人裏老内藤五郎右衛門辭職セシモ願書却下蜷川權左衛門ニ同役ヲ命シ國元ヨリ出府交代セシム

同日完戸美濃家計困難ニ因リ請願アリ節儉ノ爲メ五年間休息ヲ許ス

同日井原市正家續ノ嗣子ナシ井原五郎左衛門ノ養子トナリシ井原大學三男求馬ヲ聟養子ニ請願許可アリ市正高祖父井原伯耆ヘ給與ノ家祿八百石兩家ヨリ請願嫡孫彦右衛門其弟十右衛門ヘ讓與シ伯耆家筋市正家ニ相立タル由上申セリ本家ト云名義ナキモ本家ニ紛ナキニ由リ双方ノ乞願ヲ納ルルコトトセリ

九日妾ヲ以テ妻ト爲スニ關シ幕府訓令左ノ如シ

妾を妻に仕候儀猥には有之間敷事に候得共若品も有之逮其儀候はゝ向後萬石以上は月番老中其外其面々之頭支配え可被達置候無左候而は妻の忌服又は養母等

の忌服まきらはしく候に付申通候

右之通寄々可申通候以上

辰七月

廿八日手回頭役國司隼人病痾缺勤中同役志道太郎左衛門閏四月ヨリ七月下旬ニ至ル定勤ニ因リ召下單羽織金貳拾兩下付

日不詳辻躍辻相撲ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

前々ゟ於堀内辻躍辻相撲被差免候儀は無之候處に頃日深野町追廻等にては躍相撲も有之樣に相聞候甚以不心得之儀候若此已後相背候もの有之候はゝ急度可被及御沙汰候此段御目付衆其外見分之役人中えも被仰渡候間御内意申達候樣にとの御事

享保九辰七月

覺

一辻躍辻相撲今年も近年之通心次第被差免候尤物切の儀先不及沙汰候事

一火用心之儀兼て被入御念候儀候間躍相撲場所近き人家之垣壁其外にても安の火なと危相に仕間敷候若相背候もの有之候はゝ急度曲事可被仰付候最御目附衆其外見分の役人中えも手堅其沙汰申付候事

享保九辰七月

八月九日毛利伊豆養痾ノ爲メ歸邑請暇許可アリ

十六日幕府ヨリ辻門徒ト號シ俗體ノモノ死人ヲ弔スルヿ向後制禁ノ旨訓令アリ

十九日公名ヲ長門守ト改ルヲ乞願セラレ許命アリ

九月十六日八月十四日大風洪水兩國内被害景況幕府へ報告左ノ如シ（長府德山領ハ此外ナリ）

一田畠高三萬八千五百石餘

内九千三百石餘永荒

一井手川除波請石垣等九萬六百七拾間餘

一道筋壹萬六千八百間餘

一堤三ヶ所
但砂入埋候
一落橋三拾七ヶ所
一潰家千貳百六軒
一流家七拾五軒
一倒木千八百七拾本
一破船四拾九艘
但廻船獵船等
一溺死拾六人
内男拾四人 女二人
一死牛馬貳拾壹疋
内壹疋馬
十九日夜秋里五郎左衛門宅燒亡河添中ノ丁出火民家廿戸餘燒失

廿三日毛利但馬守廣房江戸發十月十七日歸邑
廿五日悟窓妙省元就公臨室小幡殿 玉茉女 稱東大方 洞春寺ニ於テ茶湯修セラル
廿七日江戸當役手回頭へ訓示左ノ如シ

覺

一御側之内抽相勤候者有之候はゝ手前迄可被申聞候左候はゝ其趣速遂言上其人體え相應之御賞美をも可被成下候尤其者常々之樣子を被考合番頭被申談御番勤不勤等之儀迄僉議之上可被申聞事
一御側之内衆々行跡不宜歟又は惣半間之妨をも仕候人體有之候はゝ是又其趣手前迄被申聞候はゝ則申上各言上之筋を以御側被差替候歟依品は御咎可被成候事
一御側日用之勤方近年之形自由ヶ間敷有之候樣に各存入も有之由相聞候向後御番等其外之儀付ても自由ヶ間敷廉見及有之候はゝ其段番頭を以急度可被申聞候且又時々勤方之筋に付　上ゟ御了簡之品下り候共以來之形にも相成儀と被

存候はゝ不殘心底其趣時々手前へ可被申聞候左候はゝ可令差圖候間其上被及
御聞沙汰可被仕事
一當番之御扈從中御役通を始不缺樣御次相詰尤不叶用事候はゝ替々一兩人部屋
罷越候樣に仕尤　殿樣西御殿被成御座候內とても部屋引込居候儀無之樣に堅
內意可被申聞候事
一御寺參其外御表御式臺ゟ御出被遊候時御座敷御供仕候御小性當番は御役通り
平番共彌不缺樣罷出御歸之時御迎に御式臺罷出候儀も念を入御間合不申儀無
之樣に若緩せも有之候はゝ御咎可被成間右之趣內意可被申聞置候事
一御前向之儀外樣え洩し申間敷との儀は御側銘々神文之前候へ共品により洩候
樣にも可有之哉然は
御前廻り之儀於外樣說にても被承候はゝ可被申出候其上何分可被遂御吟味候
事
一御小性中半間之集會に結構之饗應等不仕萬事御法を相守質素有之候樣に番頭
迄內意可申聞置候總て御側ゟ結構之品をも仕樣世上に相觸候ては甚以不可然
事
一衣服之儀近年被仰付之趣も有之事候間彌以於御國は總て木綿之衣服相用尤拜
領之品にても袴羽織上着下着至迄絹布不相用羽織袴之裏等茶丸を付候儀も不
宜候間此段能々可被申聞候御側之形を見合諸人手本に仕儀候へは御側ゟ美麗
有之樣に相見候ては甚以不可然儀候間若不心得於有之は其人々え猶又內意可
申聞候事
一御小性中部屋にて猥に高咄雜談等其外不行規無之樣に銘々內意可被申聞置候
此上不心得も有之猥之儀相聞候はゝ部屋え踏込見屆候樣御目付中えも堅被仰
聞候事
一於江戸當番之節馬場え罷出候儀向後堅被差留候且又的場なとへ當番ゟ罷出候
儀は勿論有之間敷事候へ共是又彌不罷出樣可被申聞置候事
一於江戸　殿樣外え御出之御留守當番之御小性小屋え罷下候儀不相成御法に候

へ共銘々若不心得にて罷下候儀無之樣に可被申聞候御客等有之節は朝夕支度下之刻限に相成候共罷下候儀見合御間不缺樣可仕由可被申聞候事

一地他國共御番交代之儀江戸は朝五時御國は朝五半時に限候儀彌無相違可被相心得候尤交代之儀は御次御番帳之間におひて番頭衆へ申達入替候樣可申聞候事

附御番勤不勤之判形日々御目付見屆候て被仰付來候然處御用相支候由にて數月判形不相整儀も有之候由相聞候此段御用差向て整候儀不相成事も可有之儀候へは追ての御番之節は必判形可仕儀候處右之通延引仕候段甚以不心得之儀候向後右之通無據御用有之支候はゝ其段御目付衆へ相斷來番之節相整可被申候然上は判形月を越候ては不勤之御沙汰に被仰付候此段御目付衆えも堅被仰付候事

一御側衆之儀外樣之者え猥集會不仕段は古來之御法候雖然猥集會之儀も有之樣に相聞向後服忌懸る親類之外參會堅被差留候尤此外親類緣者知音幷隣家諸藝師匠等無據參會之者も有之儀候間左樣之者之儀は其銘々名付を仕兼て差出置候樣被仰付候間此段堅可被申聞候事

右大概の趣候間猶又能々被申合向後宜相嗜候樣可被申聞候惣而外を紛候儀は自己の覺悟を起次第〳〵に相及候姿に無之候はては當然不相叶向來以其事不遂儀候間番頭中を右趣を存能々相嗜御扈從中も相勵し候樣に可被申聞候尤ヶ樣之儀は一往に而は不相濟事候條追々不息右趣內意に而たも被申聞其上不心得之者於有之は急度可被申出候右の趣達　上聞候上如此可申聞旨候以上

辰九月

桂　能　登

國　司　隼　人殿

志道太郎左衛門殿

廿八日毛利讃岐守匡廣嫡子主水領地へ暇ヲ賜フ十月九日江戸發十一月四日歸邑之レ嫡子ニテ賜暇ノ始ナリ

同日完戸四郎五郎大番頭ヲ免シ內藤與三右衛門ニ後任ヲ命ス四郎五郎へ召下羽織

下付

十月朔日内田信濃守正偏江戸日ケ窪屋敷ニ於テ發狂妻ヲ傷ク依テ壹萬石之内三千石没收嫡孫負正昌ヘ家督セシム（信濃守妻ハ德山毛利但馬守伯母ナリ）

三日萩海潮寺去卯年夏冬之結制其外制外之法式執行ニツキ本寺ヨリ過塞十年間隨會停止命令アリ

九日ヨリ十日ニ至ル常憲院殿來正月十七回忌取越十二日ヨリ十四日ニ至ル文照院殿拾三回忌氷上山ニ於テ法會執行ニツキ福原對馬ヲ代拜セシメ是日公山口ニ赴キ參拜十一日ヨリ湯田入湯廿五日歸城

十五日大島郡日前村願行寺妻三男子ヲ分娩ス三男子產スルハ古來ヨリ慶事ニツキ一子ニ壹俵宛下付

十一月六日常憲院殿十七回忌東叡山ニ於テ法會アリ

十日大雨萩城内馬場西ノ山拾三四間潰崩大木倒ル

十五日長福世子ヲ若君ト稱ス（德川十五代史）

廿一日三家以下大名諸士初メテ世子ニ謁ス

十二月朔日世子長福名ヲ家重ト改ム

同日諸臣衣服飲食其他百般ノ制則數條ヲ頒布セラル從來公布ナリタル規定成令ニ節減ヲ加ヘ彼此綜合シタルモノニシテ浩瀚冗長ニ渉ルヲ以テ今之ヲ畧ス今ニ至リ之ヲ享保九年ノ品定ト云

二日地江戸老臣ヨリ手回頭ヘ訓示左ノ如シ

御手廻足輕於于時頭の外え被相屬被召仕候處御付と有之儀　大照院樣御意の旨も有之近年の趣旁々付被差除被下候樣にと内々御斷申出候趣及御沙汰候大照院樣御意の旨有之由を以御斷申出候故當役中段々僉議之上委曲達　上聞候　大照院樣御意を以御手廻足輕被引分置候段は大組足輕の通に被召仕候而は御手廻の警固其外御用不相達候樣御持方のため分散不仕樣に被仰付置候儀今以其御持方候依之素々大組足輕の通には不被召仕　上々も時々御勘辨を以只今迄之通江戸御國共於于時は孰にも御付被成度々被召仕相勤る儀候處每々

御付と申儀御斷申出之近年其名目除來候由候惣而諸士一等に而も尊卑を以御付被成夫々被召仕候段は于始于今況足輕已下匹夫を被召仕諸士へ被相屬候節は御付の御沙汰に而被召仕候はては不相叶儀候處近年御付の名目除來候段は心得違の儀於沙汰所も委細不及僉議故の儀候然は自今以後の儀も彌以御手廻御用は勿論其外に而も其筋御勘辨を以於于時は孰へ成共御付の御沙汰に而被召仕儀候尤御持方のため大組足輕の通諸所定役の手子付等には向後以不被召仕候間旁以可得其意候

右の趣頭々え可申聞旨候條此段可被申渡候以上

辰十二月二日

桂　能登
井　市正
毛　宇右衛門
毛　伊豆
毛　筑後

國司隼人殿
志道太郎左衛門殿

四日毛利伊豆母迅華院死去ニヨリ使ヲシテ弔問セシメ法會ノトキ香銀三枚下付

十一日周防長門ノ内夏以來旱魃虫枯風雨ノ爲メ被害景況幕府へ報告左ノ如シ

一高五万石餘
一井手川除波請等四万五百間餘
一道筋六千五百間餘
一堤貳ヶ所
　但砂入埋候
一落橋五拾六ヶ所
一破船三艘
　但獵船
一潰家拾八軒

一倒木百本餘

一溺死男壹人

此外八月十四日風雨被害ハ報告完了ニッキ控除ス

十二日毛利但馬守廣豐松平遠江守忠喬女ヲ娶ルヘキノ旨願ノ如ク許可アリ

十五日三宅五郎左衛門矢倉方ヲ免シ生田權右衛門ニ後任ヲ命ス

同日所司代松平伊賀守閣老ニ任ス

同日諸大名登營ノトキ留守居供從禁止ノ訓令アリ因テ列侯協議ノ結果左ノ如ク幕府ヘ請願アリシモ幼少老人病身ノ外許可ヲ與ヘス

松平土佐守口上覺

私共同列の面々古來登　城の節留守居の者壹人充召連蘇鐵の間に上け置候然處去る十五日出仕の節被差留候右の儀は就も格式に掛り候事に御座候間前々の通仕度奉存候此段奉願候已上

十二月廿三日

前嶋太郎左衛門

十六日若君諱字重ノ字用捨スヘキヲ諸臣ヘ訓示セリ若君ハ將軍ノ世子ナリ

廿一日山田其外山燒期限訓示左ノ如シ

覺

山田　三見　ことう　明木　白上邊莚野　吉田　大井

右例年山をはやく燒候付而かや不如意に相成諸人迷惑仕事候條萩廻り右の付立物通りの儀は來二月廿日まて山燒申事停止に被仰付候若相背者於有之は可被及御沙汰候爲其鳥横目地下人えも手堅申渡候條此段組中えも念を入可被申觸候以上

享保九辰十二月廿一日

廿五日桂能登實父桂彌左衛門死去ニッキ使ヲシテ弔問セシメ物ヲ賜フ

日不詳江戸番手ノ輩雇用奉公人及一季居奉公人ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一江戸御番手衆其外召置候奉公人不如意に付從諸郡先年出人の御仕法被仰付候

處に近年は在々ゟ現人差出不申萩内渡奉公人等雇差出申才判も有之由相聞候
依之左の通改被仰付候間急度致僉議相改可被申候事
一從諸郡出人の儀享保四亥年ゟ被仰付候其年以來一且在々ゟ指出候出人現人に
而罷出直様于今至迄出人の奉公仕候分不苦候事
一前々ゟ一季居の奉公仕來候者並町方出生の者雇候而差出候儀堅被差留候事
一出所在々の者としても元來一季居の奉公を以渡世仕候者出人に雇候儀堅被
差留候事
右の趣を以堅穿鑿可被仕候若其沙汰行屆不申不詰りの儀於有之は庄屋下代依品
御代官の越度に可被仰付候條只今迄郡夫雇出候才判有之候はゝ早速約束を戻し
其才判〳〵より急度現人差出候様可有沙汰候以上
享保九辰十二月

覺

江戸御番手衆其外一季居の奉公人召置候付而在々出人の望被申出現人の儀は萩
内にて前々ゟ一季奉公仕候ものを出人の名目にて召仕被申衆も有之候様に相聞
候在々ゟ出人被仰付候儀は一季奉公人不如意に付被仰付たる儀候所右之通にて
は在々之痛には相成奉公人の餘計には不相成候依之今度改被仰付候間只今迄約
束被仕候者たり共現人在方ゟ出人として不罷出ものに候はゝ出人の切懸を戻し
渡り奉公人の沙汰を以召置可被申候爲心得出人改之御沙汰筋書付之寫被差出候
若々主人々々相掠候仕方有之於洩聞は越度に被可仰付候以上
享保九辰十二月

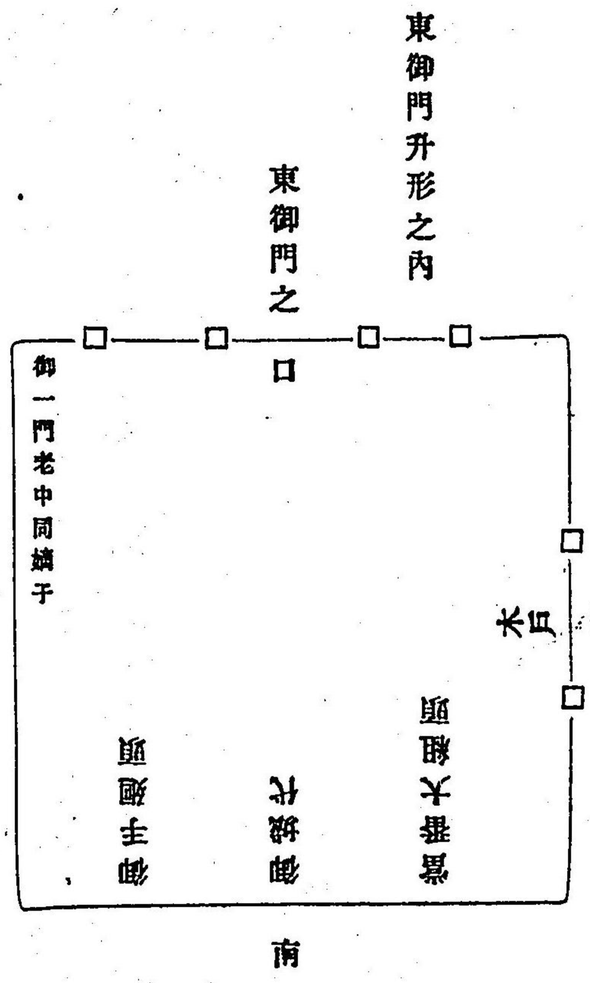
月日不詳吉 元公記

當年住吉米屋町御許町地踊ニ成ル
旅役勘渡貳石替ニ成ル
旅役出米筑後能登地江戸申合ニテ先六ヶ年間旅役米之外御馳走無之
唐樋新道平安古日野要人横へ出ル新道出來ト或書ニ見ユ
五月八日三田尻醫者河野養哲人ヲ指南仕行ヒ宜御料理被下候事

享保十年乙巳正月朔日公萩城ニ在リ

四日留守居毛利宇右衛門疱瘡ニ罹ル使ヲシテ交肴下付セシム

十三日萩城東御門持鎗人置ニ關シ訓示左ノ如シ



右前々御城代以上右之通鑓入置大組頭當番とても一切鑓入置候儀無之由に候處近年何となく當番大組頭鑓入置候付其段御門番相咎候へ共流例之由にて其儘差置候此時之當番柳澤駿頭依之御門物頭ゟ御差圖次第に可仕由遠近方へ問出候付右之通御沙汰相成候西御門同斷

享保十一己年正月十三日

同日毛利伊勢元雅ニ御國留守居ヲ命ス

十五日吉川左京經永初テ出萩廿五日歸邑

廿日浦圖書乃美仁左衛門隱居ノ請願ニ許可ヲ與ヘス

廿五日宿繼奉書ヲ以テ鷹捉鶴公參勤旅中二月六日三田尻ニ於テ拜受

廿九日國司隼人宅發火向屋敷毛利宇右衛門宅ノ內類燒セリ

同日當職毛利筑後ニ黑印令條ヲ授ク例文ヲ以テ略

日不詳諸郡在々琉球はせの實栽培ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

諸郡在々え琉球はせの實御植させ盛生の上は德用有之儀に付其節其地主の百姓五歩　公儀え五歩可被召上候間隨分百姓共はせ成立候樣に心遣可仕之通御沙汰相成尤右はせ一卷村上平次郎功者に付彼者え被仰付植付旁之儀も段々沙汰被仰付追々平次郎被差廻事候然者給地の儀も一同に植付の沙汰不相成候ては百姓共一致に不相心得沙汰仕苦敷儀に付地給其外諸士屋敷寺社家幷町屋敷たり共年貢地の分は不殘平次郎見分の上可然所柄も候はゝ百姓屋廻り旁其所の庄屋畔頭等え申付はせ栽付の沙汰被仰付候尤德用有之節は給地の分は其所の百姓と給主と五分分ヶにして双方の德用に被仰付　公儀え少も不被召上事候且又諸士屋敷寺社家其外同斷の儀候右之趣領主を始支配中不殘此通相心得候樣との御事

享保十己正月

二月朔日桂次郎在衛門記錄所役ヲ免シ召下羽織下付數十年勤續ニ依リ俵子五拾俵終身給與目付入江四郎兵衛ニ直目付ヲ命ス重見與三右衛門番頭ヲ免シ召下羽織下付

三日長沼太郎兵衛手元役ヲ免ス

四日公東觀發駕（加判毛利伊豆宮役桂主殿手同頭國司半人大組頭根來主馬）

十一日長壽夫人五十賀ニツキ櫻田邸ニ於テ連歌興行アリ長壽夫人へ懐紙樽一荷箱肴一種進セラル

同日公之船已ニ三田尻ヲ發シ扈從及輜重順次出帆藝州忠海ニ到テ風波狂暴扈從ノ天長丸一隻沈沒ス士卒十四人水夫七人溺死公ノ船幸ニ恙ナキヲ得タリ溺死諸士人名左ノ如シ

佐々木次右衛門　同　半右衛門　新山九郎右衛門
柏村治右衛門　落合喜左衛門　渡邊十左衛門
吉村小兵衛　金山銘阿河野田雪
足輕壹人　御中間四人　水夫六人　死骸不明渡邊十左衛門落合喜左衛門死骸上ル

溺死者跡職相續ヲ命ス難船救助ニ關シ盡瘁セシモノ褒賞差アリ天長丸船頭久佐

問左助逼塞遠島見習足立彦右衛門逼塞ヲス

廿四日手回頭國司隼人病ニ罹リ參勤途中土山ヨリ京都ニ赴キ療養許サレ三月廿四日着府

廿七日東海道宿驛人馬ニ關シ大目付回狀アリ依テ三月十一日諸臣ヘ訓令左ノ如シ

一東海道宿人馬不足故別て助郷村之逮難儀候に付此度宿々人馬不足無之樣に被仰付餘計之人馬は不差置筈に候依之在番諸大名其外往來之者向後入用之人馬は致先觸差出候賃錢急度相拂可申候差掛り入用之人馬出させ候はゝ問屋え申付候共相對を以雇かさつ成儀無之樣に可被相心得候尤問屋不屆有之候はゝ其段逐て道中奉行え可被相達候

一諸大名道中に一日三頭程充人馬不被差支樣に可被相通候川留りにて逗留差湊候節は右之順を以段々可被相通候以上

己二月

東海道宿人馬之儀に付此度從　大公儀御書付被差出候之故寫拜見被仰付候御供達不時往來共入用之人馬問屋へ申付候節相對を以雇かさつ成儀無之樣に未々又者至迄能々可被申聞候若問屋不謂儀有之不得已事たりとも其場令堪忍其旨趣逐て申出候はゝ御沙汰之上御書附に有之通道中奉行え被仰屆にて可有之候間於其場全短慮之儀無之やうに可被相心得候

廿八日防州錦川假橋落成

公參覲ノトキ佐波川橋ヘ毛利筑後ヨリ家老及物頭目付役等川越接待トシテ出スヘキノ命令アリ

日不詳山燒ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

毎春山を燒候付諸木盛生之爲不宜之由に候尤山を燒候はねは草立惡敷由に付野山の内被差免たる山も有之候得共近年猥に相成被差留候山も段々燒候付所詮山燒候事被差留候此段念を入可有沙汰候若相背候者有之候はゝ急度可被申出候萬一野火なと入山燒け候はゝ所之もの出合消留可申事候緩せ於仕は庄屋畔頭共越

度に可申付候

一山を燒候はて不相成所柄も有之無據斷之筋委細僉議之上可申出候はゝ少宛は被差免儀も可有之候條旁可被得其意候事

右之通當島兩大津前美禰奥阿武郡山口宰判え申渡候條此段組支配中え念を入可被申觸候以上

享保十己二月

日不詳湯淺八郎兵衛作事奉行ヲ免シ後任ヲ粟屋五郎兵衛ニ山口代官粟屋五郎兵衛後任ヲ福原二郎右衛門ニ命ス岩崎理右衛門ニ熊毛郡代官周田八郎右衛門後任ヲ周田八郎右衛門ニ岩崎理右衛門後任ヲ命ス

三月五日公江戸着駕七日上使十一日登營獻物例ノ如シ

十六日增上寺火消番奉命

廿一日吉元公第九子庸子萩西御殿ニ於テ誕生母侍女久米庸子早世ノ後京都ニ歸ル

廿三日萩地警火ニツキ諸臣屋敷前番所設置ニ關シ方法出銀額等左ノ如シ

覺

一辻番所百ヶ所

但此間之番所八拾四ヶ所に拾六ヶ所增候て右之辻

右之辻番所火用心盜人等爲用心居置事に候へは此度萩內諸所見分申付端々不用心之所一町々々四ツ辻に居置番所々々行燈灯を置何れの往還も番所ゟ見渡候樣に仕候時は此間之番所之數ゟ小々增有之候夜中拍子木を打せ時廻り仕せ御目付衆用心番之物頭衆町奉行其外之打廻りゟ番所え下知可申付候風烈敷時分は時々令沙汰晝の內も番人差出晝夜打廻り仕せ諸士屋敷寺社え火用心催促可申付候事

一銀三拾四貫九百八拾目

但辻番所百ヶ所え番人貳人宛外に頭取四人共に貳百四人此雇米一人に付壹人半扶持宛之代銀有明油代番所修補銀ともに壹ヶ年入目銀右之辻

內

拾壹貫六百六拾目

但右之内三分一之當り公銀被差出分

貳拾三貫三百貳拾目

但右之内三歩二之當り御家頼中ゟ出銀

合三拾四貫九百八拾目

御家頼中出銀覺

一大小身之諸士中並寺社足輕御中間以下萩内住宅之者計出銀差出在郷住宅之者御船手兩組御船頭御船手付中江戸京大阪定居之者出銀被差除候尤在郷住宅とも萩内に屋敷所持之者は出銀可差出候事

一出銀之割方高百石以上人別七匁宛之出銀にして外に高百石に付三匁九分當り之割増銀にして高百石に付拾匁九分宛因千石に付四拾六匁宛同壹萬石に付三百九拾七匁に當り候小身通り之當りを以右高え割付候へは分限通り大分之出銀に相當り候故割方之仕法を以分限通り出銀餘分無之樣に相整候此外右之當りを以夫々之石高に應し出銀割方可仕候高九拾九石九斗餘以上壹人七匁宛四拾九石九斗餘以下一人六匁宛足輕壹人貳匁宛御中間壹人壹匁五分宛六尺通りの者壹人壹匁宛に相當り候事

右之趣御内々都合にて逮　御聞候處右之通可被仰付との御事候左候て令吟味候處在郷住宅と候ても御船手御船頭なとの類は各別其外萩居住之筈にて當分在郷者之儀は此度之出銀をは可被仰付儀と相見たとへは今年在郷にても來年は萩罷出候趣にて萩を元に相立候はては不相成候依之筑後方え令返答候は一町切之催相辻番は下之申談迄に候へは其筋共違ひ第一　御城下火用心被入御念上下之御爲に被仰付上ゟも足銀被仰付儀候へは否存候儀にて無之被差除候時は結句萩居住之面々は迷惑にも相當り候筋は可有之候間三歩一をは上ゟ御足被成三歩貳之所は萩在郷え割方に被仰付可然候さて又辻番所之儀先唯今迄有懸り之通に板圍をも苞園にて被差置可然存候由整やう之儀は追て可申越之由申遣候事

一追て令吟味候處火の番木屋と候ても石屋なとにして番所之樣に整候而は先年

番所數御屆も有之哉之樣に公儀人なとも覺候付て御脇々之趣公儀人中聞合申付候夜中火之番小屋に限り候て之儀孰にてもケ樣之儀御屆等之儀も無之由に候然は火番小屋夜中に限り候儀苦間敷候間御屆にも及間敷と僉議之上追て御國えも其段申遣候整樣之儀は唯今布中に有之夜番木屋之樣に輕く取置に整候樣に可有沙汰由申遣候市中に有來候火番所は板圍にて取置にて候事

廿七日江戸留守居粟屋帶刀去々年秋ヨリ留守居勤續用務結了歸國ヲ命セラルルニヨリ召下羽織且金五拾兩下付

同日毛利讃岐守匡廣江戸發四月廿二日歸邑

四月朔日諸臣在鄕住宅ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

諸士中不勝手に付在鄕住宅之儀申出如願被差免候衆之內未在鄕引越不申衆數多有之樣に相聞候在鄕住宅之衆の儀は御了簡を以火本番搦番等も被差除其外於于時の急御用等も相組半間のかつきに相成事に候間自今は在鄕の願申出被差免候ても引越居往不仕內は萩居の沙汰にて諸役所勤被仰付候條於支配所も可有其沙汰候左候而在鄕引越候節は其段申屆候樣可有沙汰候尤在鄕引越居住の上は御代官衆へも銘々ゟ相達御代官衆ゟ無相違段致沙汰申出候樣に被仰付候間可有其心得候事

附只今迄在鄕被差免候衆も右之通相心得未引越不申衆は早速申出候樣に可有沙汰候事以上

享保十己四月朔日

九日若君家重公元服從二位大納言ニ叙ス

十一日福原對馬廣泰死去未期養子益田越中弟主殿へ跡職ヲ命ス廿三日對馬後室疱瘡ニテ死去主殿其外親族へ弔問書下付

十二日毛利兵橘ヨリ系譜及覺書ヲ以テ請願ニ由リ公諱字契約セラル刀一腰（備前守行無銘）代金五枚（紙アリ）付與

毛利兵橘ヨリ提出系圖

高祖父

重高　平民　森十郎左衛門

信長公江相勤尾張國刈安賀知行仕候永祿四年於尾張病死紋所鶴丸

曾祖父

重政　本國尾張　生國尾張　毛利兵橘後豐後守從五位下

信長公江相勤申候秀吉公江賜播磨國候時信長公依命秀吉公江相勤申候天正年中於中國秀吉公ト毛利輝元公御對陣御和睦之節兵橘後豐後守弟勘八後伊勢守兩人ヲ自秀吉公爲人質被差越候右兩人秀吉公江御返シ被成候節從輝元公被下姓改毛利申候其後從秀吉公豐後國本付之城給知行高六万石慶長二丁酉年五月六日於木付城病死

祖父

重次　本國尾張　生國豐後　毛利虎丸後兵橘

四歳時父豐後守相果秀吉公逝去砌跡目滯幼少ニ而流浪仕候處豐後守儀年來從現樣秀吉公ト之御取次被仰付御懇ニ付忰之義片桐市正江被遊御尋則被召出其後被仰合候品在之秀賴江被爲附置候右之節　上意ニ而童名改虎丸父名兵橘罷成候大阪御陣之時分右之譯片桐市正一所大坂ヲ立退申候其節本多佐渡守奉ニ而難有　上意之趣以書中被申傳候

覺

一輝元公ゟ兵橘秀吉公へ御返し被成候節仰に森と申も毛利も唱同事殊此度之由緒も在之儀候間向後毛利相成姓も大江に改候樣仰御盃被下志津御脇差致拜受候今以所持仕候

一本名森平民候處右之趣輝元公ゟ姓被下大江罷成候紋所一文字三星又は鶴丸も付申候高麗御陣の時分幕白地紋黑澤潟一文字三星筑白地黑十ノ字馬印四半白地朱十ノ字家中番差物四半紺地白く十ノ字付申候

一當毛利周防守は伊勢守家筋弟之故姓も前々通り平氏紋所も違申候名乘も先祖重高申候故惣領豐後守ゟ私家重の字通り字周防守方は高の字通字仕來候

一常憲院様御代　鶴姫君様被遊御成長候節紋所鶴丸相止候時節　壽德院様被仰候は姓も大江に而候上は衣服の紋澤潟に仕可然被思召候由毛利甲斐守殿を以被仰遣夫ゟ澤潟付申候

右之趣有增候へ共書印掛御目候委細は貴面御噺申候通御座候其内亦々御物語可仕候以上

己二月九日　　毛利兵橋

上山庄左衛門様

同日國内大雨洪水田畠ノ損害高三萬千石餘山崩三十八所人家百三十二戸寺一宇倒流ス死人四名アリ之ヲ幕府ニ上陳セラル

十八日諸臣旅行ノトキ宿札其外肩書ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一道中不時往來仕候面々宿札之儀肩に　御名を書付下に何某と書付來之由に候向後者　御名書付候儀を差止肩に長州と書付下に何某と認可申候事

一道中荷物荷札の儀近年長州何某と調候樣に相成候然處に不時往來の面々なとは　御名を書付其下に何某と調候者も有之由候向後御供達は勿論不時往來共孰も　御名書付候儀差止長州と計書付下に何某と調可申候事以上

右之通内意申達候樣にとの御事候間御支配中え屹と無之樣に可被仰觸候以上

享保十己四月十八日

十九日京極宮簾中（憲司姫君尚君亭）逝去公養母方ノ叔母ニッキ忌十日服三十日養心夫人兄弟ニッキ忌廿日服九十日受ケラル江戸邸鳴物高聲停止三日間

五月八日毛利讃岐守匡廣二男隼人稻葉修理へ養子願許命アリ

十七日宗對馬守朝鮮應（幕府献上殘）一居大阪ニ於テ買求セラル代價三拾兩也

十八日萩城東之御門勘過ノ物色切手ニ關シ告示左ノ如シ

覺

一御城東之御門物色切手之儀向後晝夜往來共に添印無之候得は相通し不申樣に被仰付候間物色書付候所に添印を突被申候樣にとの御事以上

享保十己五月十八日

遠近方

廿四日井原市正當職添役ヲ免シ老中ニ任シ江戸留守居ヲ命ス渡邊太郎左衛門隱居願ヲ許シ小三郎ニ家督ヲ命ス

廿八日渡邊小三郎ニ裏判役ヲ命ス

六月朔日五十歳以下月切駕籠ニ關シ訓示左ノ如シ

五十歳以下の衆月切の駕籠御斷被申出被差免候衆中御奉書被差出候上は御目付衆ゟ差替請取候儀延引不被仕樣との御事

附又內醫者町醫者月切駕籠御奉書御目付衆え差出候儀不相應の者に持せ不差出樣にとの御事

右御內意申達候樣にとの儀候以上

享保十己六月朔日

六月警火ニツキ萩地假番所設置に關シ訓令左ノ如シ

覺

一火用心の儀常々被入御念儀候得共近日繁々の付火手あやまちも度々有之に付定火消增打廻等の儀も段々被仰付御家賴中居屋敷一町切の催相假辻番の儀も御沙汰有之面々申談を以被立置夜廻無懈怠候付火用心は不及申目立候盜人なども無之諸事のしまりに相成候第一火用心の儀別て被入御念儀に付て右假辻番所行かゝりの通被差置度儀　上之思召も右の趣に付遂吟味達　御聞候處彌先此中の通年中可被差置との御事候然は只今迄の通手人を以夜番被申付候而は小身の衆別而難儀の由に付假辻番所番人夜廻共に當七月ゟ今年中　公儀惱にて町奉行ゟ其沙汰被仰付右入用三歩一は公銀被差出殘所御家賴中足輕以下末々迄並寺社領有之寺社家共に割方を以出銀被仰付候委細町奉行ゟ支配方え相達候樣に被仰付候事

但右に付一町切夜廻催相の人數物切能樣に町奉行ゟ改被仰付候一催相に辻番壹ヶ所充被仰付儀に候勿論辻番　公儀惱の內は一町切の夜廻銘々ゟ被差廻に不及候事

一御堀内之儀表向假辻番立置候儀如何に付分際の衆門番所に番人差置夜廻等被申付候樣にと被仰付且又近來は急火の手當直夜打廻をも被仰付被入御念儀に付此已後も表向の所假辻番をは不被仰付儀に候得共萩内就よりの出火と候ても及大火候へば　御城下一統の迷惑に相成　公儀御家頼中共に別而火用心肝要の儀に付て公銀をも被差出假辻番　公儀なやみに被仰付儀に付御家來中不殘出銀被仰付候尤　御城内物端の假辻番所此度ゟ少々被相增候事

一在郷住宅の諸士中の儀萩に屋敷所持不仕衆も可有之候得共元より在萩相定たる儀當分御了簡を以在郷住宅被差免置候儀に付御家頼中一列の御沙汰を以出銀被仰付候事

附三田尻御船手兩組同前御船頭以下其外在々地に付候役人尤寺社家共に出銀被差除候分町奉行ゟ相達候樣に被仰付候事

右火用心者　御城下第一の儀に付先今年中右の通に被仰付候條可被得其意候尤委細の儀は支配方ゟ町奉行所え聽合の上可有沙汰候以上

毛筑後
毛伊勢
毛宇右衛門

享保十己六月六日

九日高洲正兵衛服部半七江戸在番中負債償還遷延ニ及ヒ決算終了ニ至ラス因テ遍塞ヲ命ス

廿五日三月ヨリ萩橋本大橋架換工事始リ是日竣成ニ因リ廿六日春日社人波多野宮内ニ渡初ヲ命ス

日不詳三戸彦右衛門ニ長井二郎兵衛代京都檢使ヲ命ス

日不詳三摩地院下人城内ニ於テ窃盜ヲ爲ス糺明ノ結果住職連賢脫衣流刑ニ處ス

七月朔日萩地辻番之制ニ關シ訓示及遠近方屋敷奉行告示左ノ如シ

覺

一萩中諸士屋敷火用心假辻番の儀暮六時ゟ明六時迄番人貳人宛差置夜中拍子木を打一時廻仕候事

附番人一切下座之不及沙汰候事

一人柄不審成者通り候はゞ假名を相尋候樣に申付候事

附何ぞ不審成物を持通り候歟人柄無心元相見候はゞ假名行先等相尋猶又不審に相見候はゞ辻番送りに仕行先え送り屆しまり能其人物引渡候樣に申付候事

一不審成者召捕候はゞ近方の屋敷え引渡申筈候間請取當分其作舞可有之候主人留守にて候はゞ隣家の内在宅の家え引渡候樣に申付候尤無人の衆は隣家申合其作廻可被仕候事

右之外番人勤方委細の儀は町奉行所ゟ辻番催相の衆中え可相達候間可被得其意候以上

享保十己七月朔日

覺

一萩内諸士屋敷火用心假辻番所　公儀惱にて町奉行ゟ其沙汰候仰付當月朔日ゟ被立置候段は先達て御沙汰有之候右番小屋の儀只今迄有掛りの番所當分かり用ひ候儀も可有之候番人の儀も朔日より追々入替有之筈候何篇町奉行ゟ乞合可有之候條折相能被申談候樣にとの御事

附假辻番の儀に付一町切催相の衆中え御客屋より申達候趣並番人勤方の覺

書御客屋に有之候間番人入替相成催相改り次第一町〳〵組相の内より壹人宛御客屋差出寫取せ被申候樣にとの御事以上

享保十己七月朔日

萩内假辻番所番人勤方之覺

遠　近　方

一番人相定り候得は請取の辻番所催相の屋敷〳〵え付屆仕候事

附番人人柄相改り候節も同前に相屆候事

一暮六ッ時ゟ朝六時迄一時壹度宛一夜七度組相の番所貳ヶ所の内ゟ壹人双方請取の場所夜廻り仕候事

一拍子木打樣時の數を打せ申候事

附出火の節は早拍子木を打せ候事

附火さし盗人召捕候歟或喧嘩口論其外何ぞ不慮の義有之節は貳ッ宛打切の拍子木打可申候左之組相之番所は勿論方角の番所の者も棒を突番所の外え出候て不審の者等相咎候事

一人柄不審成者通り候はゝ假名を相尋候事

附何そ不審成物を持通り候歟人柄無心元相見候はゝ假名行先等相尋猶又不審に相見候はゝ辻番送りに仕行先え送り屆ケしまり能其人柄引渡候事

一不審成者を召捕候はゝ近方の屋敷え引渡作舞有之候樣に可申達候主人留守にて候はゝ隣家の内孰にても主人在宅の家え引渡申候事

附諸士下屋敷幷寺社家えは引渡不申候事

一甚の内にても風烈敷時は屋敷〳〵火用心の催促申達候事

一用事相調候共遠方え不罷出貳人一同に番所を逃し不申候事

附用事無之者番所え呼込不申候事

一番所にいけ火入を置茨のみ候儀は不苦候然共外の者番所にてたはこの火もらひ申候共絶て遣し不申候事

附諸士又家頼町人等にても提灯の火を消し候て番所の火を所望の時は人柄慥に見屆番人ゟ灯候て相渡候事

一毎夜不寢番仕候樣には身體不續事候得は兩人の内申談壹人番所を相謹壹人者睡り候儀不苦候事

一一切下座不仕事

一御目付衆御用心番の物頭衆其外の打廻中一町の屋敷〳〵より番人自惰樂に無之樣下知被仰付との御事に候番人共謹て得其旨候樣にと手堅申付置候事以上

享保十己七月朔日　　屋敷奉行

九日幕府向用務依頼ノ飯高市郎兵衛祐筆頭免職ニッキ後任ヲ飯高七左衛門に依囑セラル

十一日辻躍相撲警火ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一辻躍相撲今年も近年之通心次第被差免候尤物切の儀は先不及沙汰候事

一火用心の儀兼て被入御念儀候間おとり相撲場近き人家の垣壁其外にても茅の火など麁相仕間敷候若相背候者有之候はゝ急度曲事可被仰付候尤御目付衆其外見分の役人中えも手堅其沙汰申付候事

享保十己七月十一日

廿三日防州平郡ノ十兵衛ナルモノ十年前罪アリ赤間關ニテ捕縛五島へ遠流セラレシニ大納言元服ニ由リ放免長崎奉行所ニ於テ交付アリ

廿八日毛利主水（長府毛利讃岐守匡廣嫡子）依例登城謁見畢退席水野隼人正ナルモノ突然刀ヲ拔テ主水ヲ擊ツ再三主水我佩刀ノ鍔ヲ以テ遮蔽終ニ隼人ノ刀ヲ奪フコトヲ得タリ主水疵ヲ被ル數所幕府急ニ醫生看護日ケ窪邸ニ送ラシム蓋隼人正喪心發狂茲ニ至レリ翌日閣老使ヲ我邸ニ出シ主水ノ病ヲ問訊セシム公書ヲ以テ其疵口日ニ癒快セルヲ報セラレ後數日マタ書ヲ閣老ニ呈セラル主水病日ニ恢復スヘシ敢テ隼人正ニ對シ恨怨ヲ狹マス唯冀クハ隼人正ノ罪譴輕緩ニ處セラレンコトヲ八月廿七日ニ至リ隼人正信州松本七萬石ノ領地ヲ沒收セラレ弟卯之助ニ七千石ノ地ヲ賜ヘリ

德川十五代史曰七月廿八日永野隼人正忠恒亂心シ大廊ニテ毛利主水師就ニ切カカル師就狂人ト見シカハ之ヲ捕ヘントスレ共忠恒猶切カ、レバ師就鞘ナカラ拔アハセ忠恒ノ刀ヲ打落ス戸田右近將監氏房急キ忠恒ヲ押ヘ目付長田三右衛門元憐モ來リテ之ヲ押シ隔ツ忠恒カ狂氣ノ致ス所ナレハ秋元伊賀守喬房ニ預ケラル忠恒ノ邸宅ヲ收公ス廿九日目付酒井頼母忠衍水野忠恒カ毛利ニ傷ツケシトキ遁レテ出ハザリシハ其職ニ似合ハズトシテ改易セラル

是時狂歌ニ

殿中の沙汰はもうりにきわまつたもんとうなしに上の御訴訟

ふるふき（ふるふ）長田三右は左もなくてこわい酒井て人をたのむそ

八月朔日内藤十郎兵衛ニ長壽夫人裏老ヲ命ス

二日江戸算用方中原伊右衛門負債ノ爲メ惡計アリ私欲ノ形蹟判然セシニツキ野山

屋敷ニ於テ切腹ヲ命ス嫡子九郎右衛門流刑ニ處ス

四日毛利市郎兵衛手回物頭勤務中組足輕採用ニ關シ不法アリ免職逼塞ヲ命シ家祿五百石沒收毛利ノ稱號禁止セラル高橋平太夫次男牛吉毛利市郎兵衛組ヘ採用ニ關シ不屆アリ給米十分一減少

十八日松平志摩守金子要請ニヨリ俵子三百俵進セラル

日不詳竹内正兵衛ニ厚母惣右衛門代大島郡代官ヲ波多野市兵衛ニ八谷半左衛門代先大津代官ヲ桑原藤右工衛門ニ藏元檢使ヲ命ス

九月八日手回頭國司隼人病氣辭職ヲ許シ歸國セシム上下呉服二下付

十日毛利讃岐守匡廣第十六子岩之允（後重就）江戸日下窪邸ニ生ル（母津禮子飯田安入女後性善院ト號ス實層十三年誕生日十一日ニ改ム又明和七年六月十五日ニ改ム）

十二日閣老公儀人ヲ招キ毎年初鶴一隻献上ナリシカ向後ハ十一月ヨリ十二月迄ノ間今一隻献上スヘキ命ヲ傳フ

同日公歸國暇ヲ賜フ

十六日南都興福寺燒失堂宇造立ニツキ閣老ヨリ勸化ノ通牒アリ公ヨリ銀拾五枚諸臣ヨリ銀拾枚寺社町村ヨリ銀拾枚寄附アリ

十八日大井新右衛門請求ニ因リ銀五拾枚助力セラル數年幕府向用務依頼ニ依テナリ

廿四日浦小畑ニ於テ當役中大炮檢視アリ（吉元公記）

廿六日長壽夫人付針醫田北順仙給與員額定數ナキニ由リ向後扶持方四人分銀三百目下付セラル

廿九日長門之内五月中霖雨六七月旱魃虫入八月二日三日大風雨高潮ノ爲損害景況左ノ如シ

一田畑高壹萬六千八百石餘

内

田高壹萬千五百石餘

畑高五千三百石餘

一倒家百七拾貳軒
一倒木七百八拾本餘
但百姓家漁人家共
一土手崩千百拾間餘
一土手石垣百九拾間餘
一波除石垣百四拾間餘
但幅四間餘
一破損船三拾貳艘
但漁船
此月堀内春日社正一位追叙アリ三月九月祭事執行アリ吉元公記
十月三日萩城本丸橋架換落成滿願寺渡橋初ヲ爲ス吉元公記
六日大判吹替ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ
覺

一大判之儀元祿年中吹直有之古來の大判より位芳候付て此度右吹直以前之大判の位に吹改被仰付之當十一月より兩替屋共え相渡候間獻上幷被下物其外の通用には當十二月朔日より可用之候事
但壹枚は金七兩貳歩之積たるへく候兩替之者共買入候節右分量不相減樣にいたし賣出候時分も歩銀多取へからす候此旨於令違犯者僉議之上可爲曲事候
一只今迄通用候元祿大判は當十二月朔日ゟ一切通用停止之事
一元祿大判は當十二月より潰金に成候條所持之面々は後藤庄三郎方え差越之潰金之割合を以小判と可引替候尤貯置へからさる事
但潰金之分は壹枚に付小判四兩貳歩之積たるへき事
右之趣國々所々に至迄急度可相守者也
己十月
廿四日諸臣他國金銀米錢借用禁止ニ關シ遠近方内達左ノ如シ
覺

御家頼中他國之金銀米錢借用之儀御免無之候ては不相成御法勿論の事候得共若不心得にて内證として年賦借共不及申壹ヶ年切に而も他國借被仕候衆於有之は急度可被及御沙汰候此儀は兼て之御法有之事に候改て御沙汰に不及儀に候得共爲心得内意申達置候樣にとの御事

享保十己十月廿四日

山縣市左衛門
齋藤伊右衛門

廿八日公歸城

今回ヨリ參府來往大抵中國路陸行德山岩國ヨリ家老ヲ伺候セシム江戸へ禮使山内五郎右衛門ヲ出府セシムルニツキ召下呉服下付

日不詳吉川左京病ニ罹リ公通行途中伺候スルコト能ハス使者ヲシテ候問書ヲ呈シ物ヲ献ス

十一月朔日公諸臣ニ謁ヲ賜フ

同日榎本彈正ニ（機部改名）手回頭ヲ命ス

十六日諸臣旅行ノトキ荷物宿札公用荷物差札等ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一町便文箱其外總て他所え取次頼候荷物大廻り荷狀箱等或は大坂長州藏屋敷ゟ江戸櫻田松平長門守屋敷え

大坂松平長門守藏屋敷ゟ江戸櫻田屋敷え

何々　何某

一御供達者勿論不時往來共御家頼中宿札荷物札

宿札

長州　何某某

荷札

長州

何某

右御家賴中荷物宿札背付等之事先頃被仰付候得共猶又右之通相心得居可申候事

享保十己十一月十六日

覺

一御用荷物差札只今迄　御名書付候を向後一切左之通認可申事

長州

何某存之

存知之役人無之御荷物之時

長州

一飛脚文箱之差札

表は常之通双方之名付にて裏に左之通整可申候事

長州飛脚文箱

但飛脚塗文箱之書付朱書等も長州飛脚文箱と整可申候事

一町便文箱其外惣て他所え取次賴候荷物大廻り荷狀箱等

或は

大阪長州藏屋敷ゟ江戸櫻田松平長門守屋敷え

大阪松平長門守藏屋ゟ江戸櫻田屋敷え

何々

何某

一御供達は勿論不時往來共に御家來中宿札荷物札

宿札

長州　何某宿

荷札

長州　何宿

右之通御國江戸京大阪長崎等諸所諸役所に至迄右之通相心得可申候尤御家來中
えは先頃被仰付候得共猶又右之通相心得居可申候事

享保十己十一月十六日

廿日熊司前關白兼熙薨去公ハ養母方ノ祖父ニテ忌服ナシ養心夫人ハ實兼熙弟有隣軒輔信女小石君吉宮廣前關白養母ニテ三十日ノ忌受ケラル國内江戸大阪邸鳴物高聲五日間停止

廿三日鹽漬鶴一隻ヲ幕府ニ献セラル先是毎年献鶴ヲ例トナス今回閤老内諭アリ更ニ是ノ献物アリ爾後又例トナシ献鶴二度ニ及ヘリ

十二月三日領國内本年早損蟲枯ニテ田畠高七萬二千石餘被害アリ之ヲ幕府ニ申告ス四月洪水損害ノ景況ハ既ニ申報セラル

五日鬚立ニツキ訓示左ノ如シ

鬚立候儀只今迄ハ窺ノ上被差免來候得共向後は不及伺勝手次第被仰付候事

享保己十二月五日

十五日享保五年以來御什書校合ニツキ諸臣所有ノ感狀及他家證文ニテモ毛利家關係ノ證文等祖先ヨリ傳來ノモノ謄寫セシメラル、ニ因リ諸臣ヨリ提出セシメ永田瀬兵衛擔任編成同十一年ニ至テ全部脫稿ヲ告ク名テ閥閲錄ト謂フ瀬兵衛數年盡瘁ニ由リ銀三枚下付

同日内藤五郎左衛門幸橋夫人裏老役辭職ニ付召下呉服一銀五枚下付

十六日毛利兵橘領地旱魃凶耗ニ因リ請求アリ銀五拾枚進セラル

廿日深野彌左衛門豊島五郎左衛門旅役方勤務中不足銀アリ審問ノ末先ツ野山屋敷

へ幽囚遠島ヲ命ス

廿一日諸臣養子出願ニ親族添書ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

諸士中實子無之養子之願申出候節親類間に相應之もの無之段親類より添書付差出候儀只今迄妻の兄弟甥の儀添書付に不逮相濟來候得共緣者方の儀に付此已後添書付入申候事

享享十己十二月廿一日

廿八日表番頭林仁左衛門助番出勤時間遲滯ニ及ヒ緩慢ノ行爲ニ因リ逼塞翌年二月九日免職逼塞ヲ許サル

日不詳出雲大社造營ニツキ諸國勸化ニ關シ閣老交付書付左ノ如シ

出雲國大社造營に付て諸國勸化之事今度社家之者共相願候通被　仰出之　公儀ゟも御寄附の品有之候依て諸大名幷御旗本の面々且寺社町方其外御料私領國々在々所々えも勸化の儀社家の者共來春ゟ巡行いたし可相勤候間被存其旨志之輩は寄進の儀可有之候勿論志無之者えは押てすゝめ候儀堅無用に候尙勸化の狀に書載之候以上

己十二月

銀拾五枚公ヨリ同拾枚諸臣ヨリ同拾枚寺社在町ヨリ寄附アリ

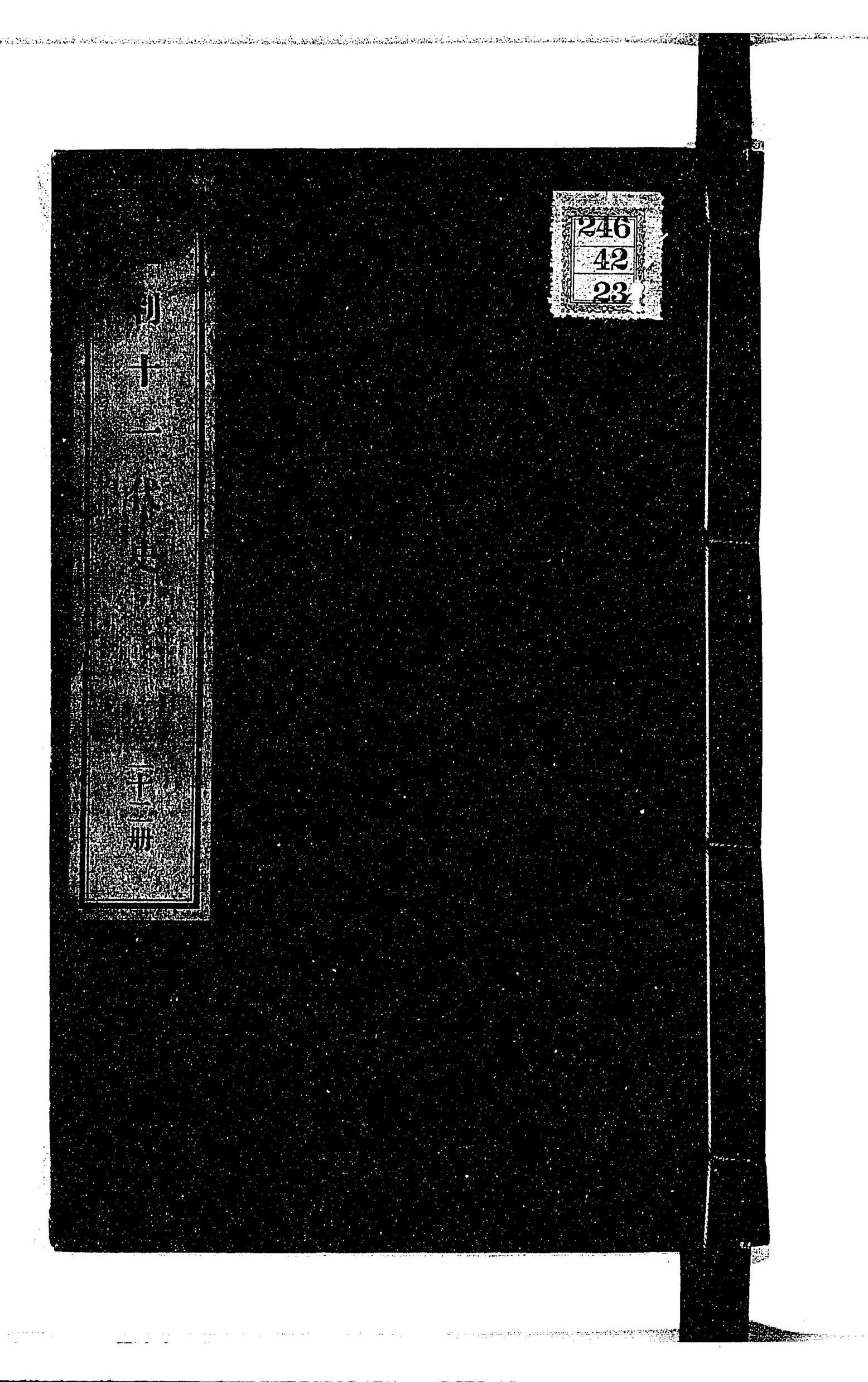
吉元公記

一旅役出米計御馳走無之

246
42
23

三禮補注

[illegible]


刊十一
十二冊
246
42
23